

HN-6200、6300 Series Network Video Recorder

ネットワークビデオレコーダー 取扱説明書 (ユーザーマニュアル)



この度は、弊社製品「ネットワークビデオレコーダー」をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

本製品をご利用の前に、必ず本書の「安全上のご注意」をお読みください。

※ 本マニュアルの写真・説明などは製品仕様とモデルによって異なる場合がございますので、予めご了承ください。

※ 本マニュアルの内容は著作権法により保護されています。

マニュアルVer.

第5版(日本語) : 2016. 07. 05

種 別	本製品のご利用にあたって
A級機器 (業務用放送通信機器)	この機器は業務用(A級)として電磁波基準を満たしております。 家庭以外の場所で使用することが定められているので、予めご注意ください。

安全上のご注意

必ずお守りください



火災や感電の恐れがありますので、
雨や湿気、ほこりの多いところ、
煙や湯気のアたる場所には置かないでください。

本製品の設置は専門のスタッフにより正しい設置基準や
該当地域の規制などに従って行ってください。

安全上のご注意

本製品をご使用の前にお読みの上、必ずお守りください。

誤った使い方で生じる障害や損傷の程度を以下のように表記しております。

危険及び警告表示



警告： 警告表示は使用者が死亡または重症を負うことが想定される内容を示しています。



注意： 注意表示は製品設置や使用方法が正しくない場合、物的損害や使用者が傷害を負うことが想定される内容を示しています。



警告

1. 付属の電源又はメーカー推奨電源以外は使用しないでください。火災の原因となります。
2. 本製品を分解や改造しないでください。故障や火災、ケガの原因となります。
3. 故障だと思われる時は必ず販売店までご連絡ください。適切な対応が行われないと、故障や火災、感電の恐れがあります。
4. 必ず、乾いた手で製品に触れてください。感電の恐れがありますので、手の濡れた状態では触れないようにしてください。
5. 製品設置は必ず専門のスタッフにお任せください。
6. アース用の3ピンプラグを持つ製品なので、アース対応用のコンセントにご利用ください。アース処理が行われていない場合、製品の故障、感電の恐れがあります。
7. アースはガス管パイプ、水道管パイプ、又は電話線などに触れないようにしてください。アースが正しくされていない場合、製品故障、感電の原因となります。
8. 異物を入れないように注意してください。火災や感電の恐れがあります。
9. システム起動中、引火性スプレーなどは使用しないでください。火災の原因となります。
10. システムは通気の良い場所に置いてください。内部に熱がこもると火災や致命的なシステム損傷が発生する恐れがありますので、通気の良い場所に置いてください。
11. 内部に水が入らないようにご注意ください。汚れがひどい場合は、乾いた柔らかい布をお使いください。故障や感電の恐れがあります。



注意

1. 必ず、メーカーから提供するケーブル、或いはメーカー推奨の電源ケーブルをご利用ください。規格外のケーブルを使用すると火災や製品損傷の原因となります。
2. 取り扱いには丁寧に行ってください。落としたり、ぶつかけたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
3. 前面パネルの通風口と背面パネルの通風口を塞がないように注意してください。製品の内部温度が許容範囲を超えると、製品故障や火災の原因となります。
4. 雷のときはケーブル類・機器類に触らないでください。感電の原因となります。
5. 高温になる場所に製品を設置しないでください。製品の内部温度が許容範囲を超えると、製品故障や火災の恐れがあります。
6. 振動の激しい場所、安定してない場所への設置はお止めください。製品故障の原因となります。
7. 内部のファンは高速回転しているため、指や鋭いものなどを触れないようにご注意ください。事故の恐れがあります。

電源に関する注意事項.

警告

1. 必ずアース型のコンセントを使用して電源コードに接続してください。火災の原因となります。
2. コンセントや配線器具の定各を超える使い方、又はケーブルの加工はしないでください。
たこ足配線などで定各を超えると発熱による火災の原因となります。
3. 濡れた手で電源コードを触らないようにしてください。感電の恐れがあります。
4. 電源コードは常に乾燥状態を維持させ、湿気などにご注意ください。
熱を発生するなど、火災の原因となります。なお、電源コードは防水処理されていませんので、結露が発生するような湿気では火災の恐れがあり、危険です。
5. ケーブル類をコンセントから抜くときは、必ずプラグをもって抜いてください。
無理にコードを引っ張るとコードが損傷して火災や感電の原因となります。
6. 定期的に電源プラグを点検してください。湿気やほこりなどによる火災の恐れがあります。
7. 長期間製品を稼働しない場合は電源コードを抜いて置いてください。ショートや感電の恐れがあります。

注意

1. 本製品の電源を切る場合は必ず「システム終了」処理を行ってから電源を切ってください。システム終了を行わずに電源コードを抜いて電源を切らないようにしてください。データ及び内部の部品、ハードディスク損傷の恐れがあります。
2. ハードディスク動作中に、衝撃や振動を与えたり製品の電源を強制的に遮断したりしないでください。
ハードディスクエラーやデータ損失の原因となります。

ご参考

- ※ 取扱説明書の写真やボタンなどはモデルによって変更、修正する場合がございます。
- ※ 製品の機能及び構成は品質改善のため予告無しに変更されることがございますので、予めご了承ください。

【 ご注意 】

HDD(ハードディスク)は消耗品です。

ハードディスクの故障による録画・録音内容の損失など万一何らかの不具合により、録画・編集されなかった場合の内容の補償、録画・編集されたデータの損失、ならびにこれらに関するその他の直接・間接の損害につきましては、当社は責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

HDD故障による録画データの損失を防ぐためには、HDDの定期点検及び定期交換をお勧めします。

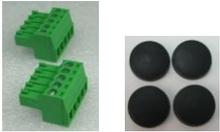
目次

1. はじめに	8
1.1 製品構成	8
1.2 システム起動.....	9
1.3 システム終了.....	9
1.4 各部の名称	10
2. 設定ウィザード	13
2.1 言語	13
2.2 日付/時間	13
2.3 HDD(=ハードディスク)フォーマット.....	14
2.4 ネットワーク.....	15
2.5 カメラ登録/管理.....	16
2.6 完了	17
3. システム運用	18
3.1 ユーザーログイン	18
3.2 カメラ登録.....	18
3.3 カメラ削除.....	22
3.4 カメラ設定	22
3.5 ライブモード.....	24
3.6 PTZ制御	28
3.7 録画映像再生.....	30
3.8 録画映像検索.....	31
3.9 スマート検索	34
3.10 DST 設定と映像再生	35
4. 設定	36
4.1 システム	37
4.2 装置.....	46
4.3 アラーム.....	52
4.4 録画.....	55
4.5 ネットワーク.....	58
4.6 バックアップ	65
5. インターネットエクスプローラーからのWEBモニタリング	68
5.1 WEB ログイン	68
5.2 WEBモニタリング.....	69
5.3 ウェブ再生.....	69
5.4 設定	70
6. よくあるご質問	71

1. はじめに

1.1 製品構成

NVR本体と同梱品が全て揃っているかを確認します。万が一不足しているものがありましたら、購入先へお問い合わせください。箱や緩衝材などの梱包材は製品の移動や保管の為に必要になりますので、保管して置くことをお勧めします。

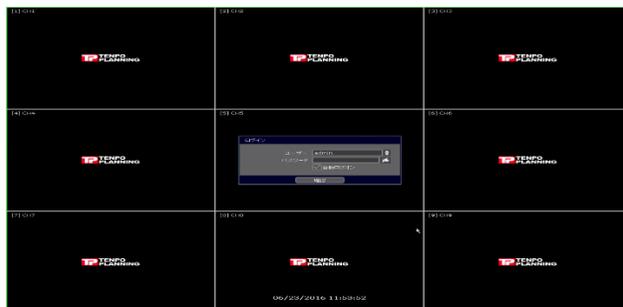
項目	写真	個数
簡単マニュアル & CD (ユーザーマニュアル & Software)	 (*) 簡易マニュアル及びCD	1セット
DC48Vアダプター (POE非対応モデルは DC12V) & 電源ケーブル		1 セット
IRリモコン	 又は	1 セット
ターミナルブロック (外付け) & ゴム足マウント	 (*) NVRモデルによって異なる場合があります。	1 セット (2個) 1 セット (4個)

1.2 システム起動

システムを起動するために、周辺機器を接続した後、電源コードをNVRに接続してください。

電源を入れた後、ユーザーIDとパスワードを入力してログインします。

“自動ログイン”項目を選択するとパスワード入力無しでシステムを起動させることができます。

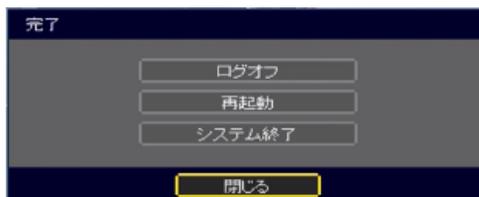


- Note**
- 1) 管理者パスワードを設定してからは忘れないようにご注意ください。パスワードを忘れた場合には、購入先へお問い合わせください。
 - 2) 自動ログイン、自動ログオフ機能があります。（“4.1.2ユーザー”参照）

Caution ネットワークメニューからDHCPを設定した状態でネットワーク上DHCPサーバーが存在しないか、ネットワークに接続されていない場合はシステム起動に時間がかかります。

1.3 システム終了

システム終了の為に画面下メニューバーの [終了 ] ボタンを押した後、ポップアップ画面の[システム終了]をクリックします。システムが完全に終了する前に電源コードを抜かないでください。ハードディスクが損傷する恐れがあります。



パスワードを入力した後“確認”を押します。システム終了の確認画面が出たら“はい”を選択してシステムを終了します。



Note パスワードはスクリーンキーボード、前面部ボタン、IRリモコンを利用して入力できます。

1.4 各部の名称

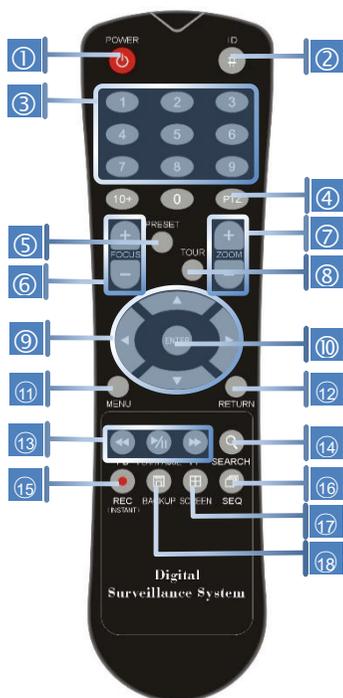
1.4.1. 前面部



**写真はモデルによって異なります。

- ① 電源ボタン : システムオン/オフボタン
- ② LED状態表示ランプ: システム状態 (電源, 録画, ネットワーク接続)を表示
- ③ USB ポート : USB メディア接続ポート

1.4.2. リモコン



- ① 電源ボタン : システムオン/オフボタン
- ② NVR ID選択ボタン : NVR選択ボタン(**)
- ③ 数字ボタン : チャンネル選択及びパスワード入力時使用
- ④ PTZ ボタン
- ⑤ プリセットボタン : PTZモードからプリセット選択
- ⑥ フォーカスボタン: PTZモードからフォーカスイン/アウト
- ⑦ ズームボタン: PTZモードからズームイン/アウト
- ⑧ プリセットツアー: PRZモードからツアーオン/オフ
- ⑨ 方向ボタン: メニュー移動、項目移動など
- ⑩ エンターボタン : 設定完了、設定値選択、簡単バックアップ開始
- ⑪ メニューボタン: レコーダーのメニューを表示
- ⑫ キャンセルボタン: メニュー終了又はその以前の段階に戻る
- ⑬ 再生ボタン : 再生モードから再生をコントロール
- ⑭ 映像検索ボタン
- ⑮ 緊急録画ボタン
- ⑯ 自動電話ボタン: ライブモードから使用可能です。
- ⑰ 画面モードボタン
- ⑱ バックアップボタン

**写真はモデルによって異なる場合があります。

Note 一つのリモコンを使って複数のNVRをコントロールすることも可能です。NVRごとに固有IDを付与し、ID番号を区分してコントロールします。(NVR出荷時の初期IDは0です。)

Not e NVR ID 設定方法

- 1) NVR ID選択ボタン(②)を5秒間押します。
- 2) 数字ボタンを利用して設定するNVR IDを番号で押します。ID番号は 000~255まで設定可能です。(ID番号は3桁の数字で設定してください。'0' -> '000', '23' -> '023', '123' -> '123')。

1.4.3. ライブモードのメニューバー

ライブモード画面からマウスを画面の下へ移動させると下記写真のようにメニューバーが表示されます。



メニューボタン

設定画面へ移動できます。NVRの全ての設定を行うことができます。（“4. 設定” 参照）

画面モードボタン

画面モードを切り換えることができます。1,4,9,16画面モード順に切り換わります。

自動切換

ライブモードの順次切換を開始/整理できます。全てのチャンネルが表示されている場合は順次切換は利用できません。

チャンネル

該当チャンネル番号を選択すると一画面チャンネルモードへ切り換わります。

緊急録画

緊急録画を開始します。緊急録画モードでは全てのチャンネルが最大解像度と最大フレームで録画されます。

緊急録画を中止するには同じボタンをもう一度クリックします。保存された映像は検索バーが赤で表示されます。

バックアップボタン

録画された映像を外部デバイスにバックアップすることが可能です。（“4.6バックアップ”参照）

再生ボタン

最近録画された画像が自動的に再生されます。（“3.7 録画映像再生” 参照）

検索ボタン

検索モードを選択する画面が表示されます。ユーザーは色んな検索方法から検索が可能です。（“3.9 録画映像検索” 参照）

終了/開始ボタン

ログオフ、再起動、システム終了の三つの方法でシステムを終了させます。

メニューバー固定トグル

メニューバーを固定することができます。

メニューバーを固定した場合、メニューバーは常に表示されます。
メニューバーを固定しない場合は、マウスカーソルを画面の下部に置かれるとメニューが表示されます。

1.4.4. 再生モードのメニューバー

再生モードになると写真のように画面の下にメニューが表示されます。



選択チャンネル表示

現在選択したチャンネル番号が表示されます。

インテリサーチバー

選択したチャンネルの録画映像状態を0～24時までグラフ表示します。録画映像の有/無、録画モードなどが確認できます。再生表示線  白い線は現在再生されている映像の時間の位置を表しています。再生表示線を動かすと再生したい時間帯へ移動します。各録画モードの色については“4.4.1録画スケジュール”を参照してください。

前日/翌日の映像検索

現在検索している映像の前日/翌日へ移動、検索することができます。

再生コントロールボタン

-  : 巻き戻しボタン x32/x16/x8/x4/x2 倍速で巻き戻し速度が調節できます。
-  : 1コマずつ後ろへ移動
-  : 再生停止ボタン
-  : 再生ボタン
-  : 1コマずつ前へ移動
-  : 早送りボタン x2/x4/x8/x16/x32 倍速で早送り速度が調節できます。
-  : 現在の再生速度を表示しています。

画面分割モード

画面分割モードが切換できます。1画面、4画面、9画面、16画面モード順に切り換わります。

簡単バックアップ開始

録画映像を外部デバイスにバックアップすることが可能です。（“4.6バックアップ”参照）

検索

検索モード選択画面です。ユーザーは色んな検索方法から検索が可能です。（“3.9 録画映像検索”参照）

再生モード終了

再生モードを終了してライブモードへ戻ります。

メニューバー固定トグル

メニューバーが固定できます。メニューバーを固定するとメニューバーは常に表示されます。メニューバーを固定しない場合は、マウスカーソルを画面の下部に置かれるとメニューが表示されます。

2. 設定ウィザード

システムが起動する時、設定ウィザード画面が表示されます。

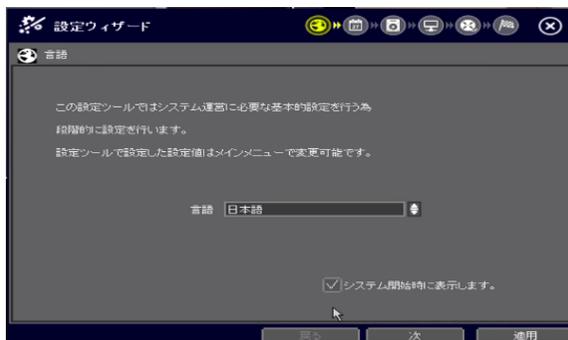
設定ウィザード画面に従って基本的な設定を行ってください。

メイン画面のメニュー>システム>情報->設定、“設定ウィザード開始”から設定ウィザードを実行することも可能です。

2.1 言語

言語選択が可能です。

本製品は様々な言語に対応していますが、対応していない言語の場合は購入先へお問い合わせください。



Note 「システム開始時に表示します。」にチェックするとシステムが起動する度に設定ウィザード画面が表示されます。

2.2 日付/時間

タイムゾーン及びサマータイム、時間同期モードなど様々な機能が設定できます。



時間同期モード

3つの時間同期モードが選択できます。

- クライアントモード
複数のDVRを使用中、特定のNVRをクライアントとして設定します。“時間同期サーバー”としたNVRのIPアドレス又はRemote Manager PC (RMS) 或いは Central Management PC (CMS)の IPアドレスを入力します。時間同期周期に設定されている時間通りに時間同期サーバーと同期します。
- サーバーモード
動作中の本製品 1 台を時間同期サーバーとして設定すると、同じネットワーク内に接続されている他のNVR(ネットワークレコーダー)はサーバーと設定されているNVRからの時間情報を利用して同期を行います。
- NTPサーバーモード
NTPサーバーという標準化されているインターネットサーバーを活用することができます。“pool.ntp.org” 使用をお勧めします。このモードを有効にする時は該当地域のタイムゾーンを設定、同期をクリックします。

2.3 HDD (=ハードディスク)フォーマット



DISK FULL(①)

HDD容量がいっぱいになると、“上書き”又は“録画中断”から選択できます。

- 上書き : 古いデータから順番に削除して、新しいデータを保存します。
- 録画中断 : 録画を中断し、既存のデータを保護します。

HDDチェック(②)

“チェック(**チェック**)”ボタンをクリックするとHDDの状態が確認できます。モデル名、シリアル番号、BADブロック、寿命、温度などが確認できます。



HDDフォーマット(③)

新しいHDDを設置した場合、又はHDDのデータに問題があると判断される場合はフォーマットが必要です。ネットワークに接続されているか、映像再生中にフォーマットを行う場合はシステムエラーが発生する可能性があります。

※ **フォーマットが失敗した場合はシステムを再起動してからもう一度行ってください。**

HDDを選択してフォーマットボタンを押し、HDDフォーマット内容を選択することが可能です。



- Note**
- 1) フォーマットの時間はハードディスク容量に応じて異なります。フォーマット時間が長くなる場合は、ハードディスク状態を確認してください。
 - 2) フォーマットが完了すると、ハードディスクに保存されたデータは全て削除されます
 - 3) システムはメモリーを効率的に使用するために、装着されているハードディスクに一定の余裕容量を残します。

iSCSI HDD サポート(④)

iSCSIハードディスクネットワークから接続して使用可能です。

2.4 ネットワーク

NVRとルーターに合った適切な設定(固定 IP又はダイナミックIP)でインターネットを介してネットワークに接続することができます。



ネットワークタイプ

固定IP(STATIC IP)又はダイナミックIP(DHCP)を選択します。DHCPを選択して[IP検索]ボタンをクリックすると、ステータスバーに進行状態が表示されIPアドレスを更新します。

IPアドレス

固定IPで設定する場合は  ボタンを利用してNVRのIPを特定IPに設定します。ダイナミックIPにする場合はシステムIPが表示されます。

SUBNET MASK(サブネットマスク)

サブネットマスクはシステムが属している位置のサブネットを区別します。詳しい情報に関してはネットワーク管理者へお問い合わせください。

GATEWAY(ゲートウェイ)

ネットワークルーター又はゲートウェイサーバーのIPアドレスです。詳しい情報についてはネットワーク管理者へお問い合わせください。

DNSサーバー

ドメインネームサーバーのIPアドレスを入力します。DDNS、メール通報機能、NTPサーバーを利用するためにはDNSサーバーアドレスが必要になります。必要な情報が分からない場合は、“8.8.8.8”を入力してください。詳しい情報に関してはネットワーク管理者へお問い合わせください。

TCP/IPポート

ローカル又は遠隔接続に使用するポート番号を入力してください。遠隔ソフトウェアPC(CMS)、スマートフォン接続(SmartViewerPro)等に使われます。

Webポート

ウェブブラウザから接続する時、使用するポート番号を入力します。

自動IP

自動的に割り当てられるシステムIP

転送帯域幅

ユーザー設定によりデータ転送量を25kbpsから1Gbpsまで制御できます。この機能は低い帯域幅のネットワークやユーザーが映像転送帯域幅を一定のレベルに保つように調整する時に活用できます。

UPnP (Universal Plug and Play)ポートフォワーディング使用

UPnPはルーターからポートフォワーディングが設定されていなくても自動的にポートフォワーディングする機能(NAT TRAVERSAL)です。ルーターの種類、ネットワーク状況によってはサポートできない場合もあります。

ネットワーク環境に合わせて必要な情報を入力し, [保存]ボタンをクリックします。

〈固定IP (STATIC IP)の場合入力例〉

- ネットワークタイプ : STATIC IP (固定 IPの場合)
- IPアドレス : NVRのIP指定 (ex, 192.168.0.164)
- SUBNET MASK : LANのサブネットマスク入力 (ex, 255.255.255.0)
- GATEWAY : LANのゲートウェイ入力 (ex, 192.168.0.111)
- DNSサーバー : ドメインネームサーバーのIPアドレスを入力します。
インターネット接続のためにはこのIPが必要です。インターネットサービス販売元にDNSサーバーIPをお問合せください。
- TCP/IPポート : デフォルトが9010です。
インターネットサービス提供者がポート9010を閉じている場合は他のポートを入力しなければなりません。(ex, 9020)
- Webポート : デフォルトが80です。
インターネットサービス業者がポート80を閉じている場合は他のポートを入力しなければなりません。(ex, 8080)
- 転送帯域幅 : デフォルトが100 Mbpsです。
ネットワーク状態から帯域幅を選択することができます。

Note 接続できるユーザー数は最大15人までです。

Note DDNS, お知らせ, Mobile Push又は P2P Cloud関連設定は“4.5ネットワーク”を参照してください。

2.5 カメラ登録/管理

登録されているカメラを確認して削除、又は新しいカメラを登録/設定します。
カメラ登録の詳細内容は“3.2. カメラ登録”を参照してください。



自動カメラ登録 (①)

本製品はサポートされている全てのカメラネットワークを自動検索し、使用可能なチャンネルとして登録します。

開始ボタンを押すと同じネットワーク上のカメラを探して順次に登録します。

複数のNVRを使用する場合、同じカメラを複数のNVRに登録するためエラーが発生する恐れがあります。この場合にはドラッグ&ドロップ又は詳細設定の利用をお勧めします。

DRAG&DROP方式カメラ登録 (②)

カメラをチャンネルに割り当てるためにネットワークを検索してサポートされているカメラをライブビューへドラッグ&ドロップします。

- ① [開始]ボタンを押してカメラを検索します。



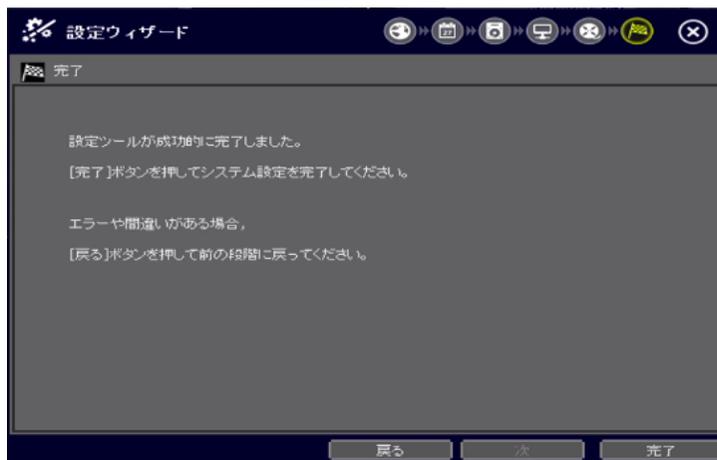
- ② 検索されたカメラの中からカメラを選択、マウスでドラッグ(マウскарソルが  に変わったら)してチャンネルへ持って行きます。(Drag & Drop).
- ③ [適用]ボタンを押してドラッグ&ドロップ構成を終了させます。

詳細設定モード (③)

同じネットワーク帯域にあるIPカメラを探してカメラを手動登録/設定します。

2.6 完了

設定ウィザードが完了すると“完了”ボタンを押して終了させます。エラーや間違いがある場合は[戻る]ボタンを押して前の段階に戻ってください。



3. システム運用

3.1 ユーザーログイン

システムを開始するために、外付けの装置を接続した後電源コードをNVRに接続します。電源を入れた後、ユーザーIDを選択、パスワードを入力してログインします。



- Note**
- 1) 正確なユーザーIDとパスワードが入力されるまでログイン画面は表示されません。
 - 2) 自動ログイン設定の場合には、ログイン画面は表示されません。(“4.1.2 ユーザー”参照)

Note スクリーンキーボードの  ボタンにはよく使われる単語が登録されています。
Admin, root, http://, rtsp://, www., .com, .net, .org etc.

3.2 カメラ登録

本製品はネットワーク経由でチャンネルの数のIPカメラが接続可能で、内蔵されているPoEポートから別途の電源を接続しなくてもネットワークケーブルだけでIPカメラを接続することが可能です。

Note カメラ登録は無駄な作業を省いて簡単に登録できるようにしています。
カメラ接続はID & パスワード入力無しで自動接続が可能です。但し、一部モデルやユーザーがIDとパスワードを別途設定した場合にはID & パスワード入力が必要ですが、一度入力されたモデルのID & パスワードは記憶され再度入力は必要ありません。

3.2.1. PoE カメラ接続

PoE カメラはPoEポートに接続されると数分以内に自動接続、ライブモードでのチャンネルタイトルが緑で表示されます。

カメラ登録のためにはカメラのDHCP設定が必要です。但し、自動IP(Zero Configuration)技術が適用されている場合DHCPが設定されていなくてもIPアドレスを自動割り当てすることが可能です。

Note PoEポートの該当チャンネルに既にカメラが登録されている状態でPoEカメラを接続すると登録されているIPカメラは他の空きチャンネルへ移動、PoEカメラが該当チャンネルに接続されます。

Note Zero-Configuration 技術とは
自動IPを利用したLink-Local IPアドレス割り当て方法でDHCPが存在しない場合、自動的にIPを割り当てするために使用します。この技術が適用されているデバイスは通常169.254.xxx.xxx 範囲のアドレスを自動選択、選択されたアドレス使用有無を確認しIPアドレスを割り当てます。

3.2.2. ネットワークによるカメラ登録

当システムではカメラ登録が簡単にできるように次の三つの登録方法をサポートしています。

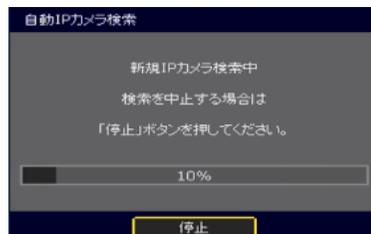


カメラメニュー(メニュー>録画>カメラ)へ移動します。

1. 自動カメラ登録はNVRのネットワークを自動検索、カメラを順番に自動登録する方式です。
2. ドラッグ&ドロップ構成はサポートされているカメラを検索して、表示するチャンネルにドラッグする方式です。
3. 詳細設定は手動でカメラを追加/設定する方式です。

3.2.2.1. 自動登録方式 (I)

- ① カメラ録画方式を選択します。この方式はNVRに登録されている全てのカメラに適用されます。
- ② [開始]ボタンをクリックすると自動的に同じネットワーク(ルーター)上の全てのカメラが検索順に登録されます。



3.2.2.2. ドラッグ&ドロップ方式 (II)

ドラッグ&ドロップ方式ではカメラをチャンネルに割り当てるために、ネットワークを検索し、サポートされているカメラをドラッグするテーブルを提供します。[開始]ボタンでカメラを検索します。



- ① 検索されたカメラの中からカメラを選択してマウスでドラッグ(マウスカーソルが  に変わると)、表示するチャンネルへ移動させます。(Drag & Drop)
- ② [適用]ボタンを押してドラッグ&ドロップ構成を終了します。

3.2.2.3. 詳細設定方式(Ⅲ)

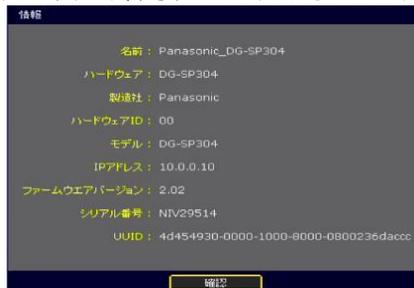
詳細設定方式では検索されたカメラを手動で個別若しくは複数追加することができます。



- ① [検索]ボタンを押してカメラを検索します。本製品は同じルーターに接続されている全てのカメラを検索して表示させます。自動IP(Zero Configuration)技術が内蔵されている場合IPアドレス帯域が異なっても検索が可能です。検索結果が表示されると、登録するカメラを選択した後 [ストリーム読み取り]ボタンを押してカメラストリーム情報を読み込みます。
- ② [ストリーム読み取り]ボタンを押すと自動的に空きチャンネルを検索、カメラにチャンネルを割り当てます。必要によってチャンネルを選択することも可能です。
- ③ [カメラ情報]ボタンを利用して該当カメラの情報を閲覧、表示するカメラに間違いがないか確認できます。
- ④ [設定]ボタンを利用してカメラの解像度/フレーム/ビットレート/画質などの設定を変更することが可能です。
- ⑤ [適用]ボタンを押して選択したカメラを登録します。IDとパスワード入力が必要な場合もあります。

Note カメラ情報

該当カメラのモデル名、IPアドレス、ポート番号、MACアドレスなどのカメラ詳細情報が確認できます。



3.2.2.4. 検索後、複数カメラ同時登録

① [検索]ボタンを押してカメラを検索します。



- ② 検索結果が表示されるとカメラプロパティ(プロトコル, IPアドレス, ハードウェア, ネーム)の中から項目を選択して整理します。整理された項目は黄色/緑色に変わります。黄色いタイトルが整理の基準となります。上の写真の場合“IPアドレス”項目で整理したものです。
- ③ [カメラ複数選択]にチェックすると複数のカメラを同時選択することが可能です。
- ④ [適用]ボタンを押すと上から順番に登録、登録完了のカメラは選択から解除されます。

Note カメラ登録の際、違うIP帯域のカメラが検索された場合やIDとパスワードが必要になった場合は登録が一時停止し、情報入力画面になります。この場合は選択されているカメラリストから一番目カメラの情報を入力します。違うIP帯域のカメラが見つかった場合は、IP変更の有無を確認します。IPを直接入力するか、DHCP設定、若しくは自動IP設定が可能です。

3.2.2.5. IPカメラ手動登録

NVRと同じネットワーク帯域のIPではないカメラを登録する場合は手動登録を行います。

① カメラ登録/管理>詳細設定>「IPカメラ手動設定」ボタンを押すとカメラプロパティ画面が表示されます。



- ② 登録するチャンネルを選択します。
- ③ 登録するカメラのプロトコル(ONVIF, RTSP, FOCUS, VHT)を選択します。IPアドレス, RTSP URL, ONVIF URLの中で、一つが分かれば登録は可能です。
- ④ [カメラ情報]ボタンを利用して必要な項目を入力した後、[ストリーム読み取り]ボタンを押してカメラからストリーム情報を取得します。ストリームが正しく表示されると登録可能な状態です。
- ⑤ [適用]ボタンを押してカメラを登録します。

3.3 カメラ削除



カメラメニュー(メニュー > 録画 > カメラ)を表示させます。

① Non-PoE カメラ

削除ボタン は常に有効になっています。削除したいカメラを ボタンを押して削除します。

② PoE カメラ

PoE カメラは接続されている状態では削除できません。

PoEカメラを削除するには、まず本体からPoEカメラを切断した後、 ボタンが有効になった状態で削除します。

3.4 カメラ設定

登録されているカメラの設定を変更することが可能です。

3.4.1. 個別カメラ設定

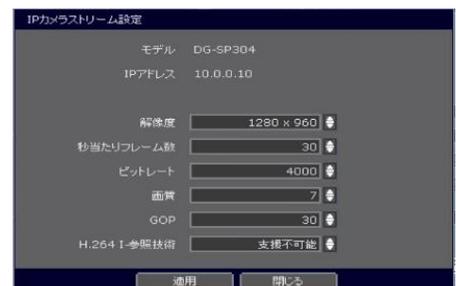
カメラメニュー(メニュー>録画>カメラ登録/管理)から[IPカメラ手動登録]ボタンを押してカメラ手動登録設定画面を表示させます。

又は、ライブモードから設定するチャンネルにマウス右クリックでポップアップするメニューから [カメラ設定]を選択すると[IPカメラ設定]画面へ移動します。



- ① [ストリーム読み取り]ボタンを押してカメラ状態を読み取ります。
 ② [設定]ボタンを押してカメラの解像度、録画フレーム数、画質などを設定することが可能です。

- ・ **解像度**: 録画する映像サイズ
- ・ **フレーム**: 1秒当たり転送するフレーム数
- ・ **ビットレート**: カメラが映像転送に使用する最大のBitサイズ
- ・ **画質**: 録画映像の鮮明度など。録画ファイルサイズに影響
- ・ **GOP**: I-Frameを作成する間隔
- ・ **H. 264 I-参照技術**: 転送されたフレームの中で保存するフレーム間隔(例えば x2の場合2枚毎に1枚だけ保存)のことで、機能を使用しない場合は全てのフレームを転送します。



Note H. 264 I-参照技術とは

IPカメラから転送される映像の録画（保存）フレーム数を設定してライブモニタリングには影響を与えないようにしながら、NVRの保存期間を長くするための機能です。この機能を‘オフ’にした場合、本製品は転送された全ての映像を録画します。この機能を使用するためには転送されたフレームの中から、何フレームを録画するかを選択します。

例えば、‘4x’と設定されている場合転送された4フレームのうち、1フレームを録画するようになります。

トータル録画フレーム数は転送フレーム数とGOPの影響を受けます。

例 1) FPS: 30, GOP: 30, I-Reference: 4x → 約 7.5fps録画

例 2) FPS: 15, GOP: 30, I-Reference: 4x → 約 3.7fps録画

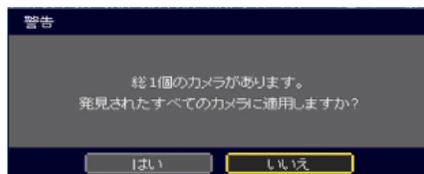
❖この機能はカメラモデルによってサポート出来ない場合があります。

3.4.2. 簡単設定

登録されているカメラの中から、モデル別複数のカメラに同じ設定を行う時に使います。



- ① 登録されているカメラモデルから設定するモデルを選択します。
- ② [ストリーム読み取り]ボタンを押して設定のプロファイルを読み込みます。
- ③ [情報取得]ボタンを押して設定値を確認することができます。
- ④ 設定値を設定した後 [保存]ボタンを押します。
- ⑤ 接続されているカメラの中から選択したモデルに該当するカメラ数を確認します。
- ⑥ “発見されたすべてのカメラに適用しますか？”と確認メッセージが表示され、「はい」を選択すると該当モデルの全てのカメラに適用されます。総



3.4.3. 登録されたカメラチャンネル変更

既に登録されているカメラの削除/再登録の操作なしでライブモードからチャンネルドラッグ&ドロップにより割り当てられたチャンネルを変更することが可能です。

変更するカメラチャンネルを選択してマウスでドラッグ(マウスカーソルが  に変わると)変更したいチャンネルへ移動します。(ドラッグ&ドロップ) 交互のチャンネル設定値と画面全てが変更します。変更された二つのチャンネルのカメラにPoEカメラがあった場合はチャンネルタイトルが写真のように表示され、該当カメラが接続されているPoE番号が確認できます。

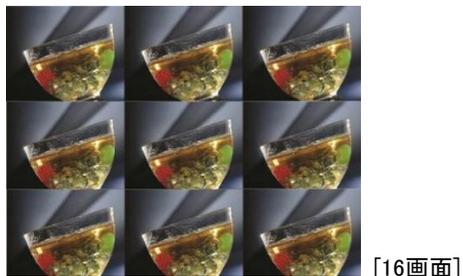
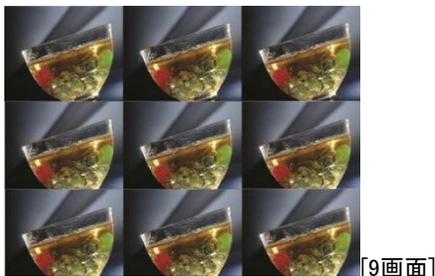
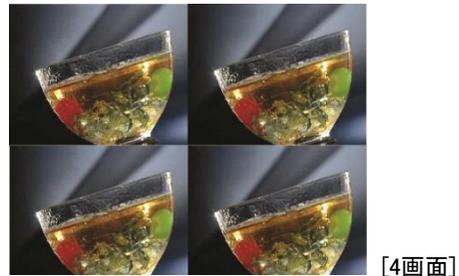
チャンネル番号	ポート番号	チャンネルタイトル
2	1	CH2

ライブモードからマウス右クリックして表示されたポップアップメニューの [分析>PoEモニター] メニューを利用するとPoEカメラの状態をすぐ確認、PoEチャンネルに接続されているカメラを再起動することが可能です。

3.5 ライブモード

3.5.1. チャンネル選択

電源入力後簡単なボタンの操作で映像モニタリングが可能です。映像はリアルタイムで1、4、9、16画面表示が可能です。前面パネルの上/下ボタン、又はIRリモコンのボタン/メニューバーのチャンネルボードアイコン()を押すと、画面が順次に変更されます。



特定チャンネルを1画面に表示させる場合は、そのチャンネルをマウスで左クリックします。以前の画面に戻る場合はもう一度マウス左をクリックします。

特定のチャンネルにカメラが接続されていないか、接続が切断されている場合、チャンネルロゴの代わりに“映像信号損失”が表示されます。システム設定によってカメラ接続が切断された場合は、アラームが鳴ります。

また、管理者は各ユーザーにそれぞれ異なる権限を与えることができます。もし、あるユーザーに特定のチャンネルのライブモニタリングや録画再生の権限がない場合は、該当チャンネルは表示されません。



3.5.2. 状態表示アイコン

リアルタイムモニタリングモードで、システム状態を知らせるためにアイコンやメッセージが画面上に表示されます。各アイコンは次の場合に表示されます。

各チャンネルの右上に表示されるアイコン		全体画面の右下に表示されるアイコン	
	連続録画		HDD無し
	モーション検知録画		緊急録画中
	センサー検知画		PTZ使用中
	連続 + モーション録画		HDD温度警告
	連続 + センサー録画		順次切換モード
	モーション + 連続録画		デジタルズームモード
	緊急録画		
	センサー検知		
	モーション検知		
	オーディオチャンネル		
	PTZカメラ		
	POS		

Not e リアルタイム画面モードの右上コーナーに録画モードのアイコンが表示されていない場合は、システムが映像を録画していない状態を意味します。この場合は録画スケジュール、カメラメイン設定メニューを確認してください。

3.5.3. ポップアップメニュー

マウス右クリックでメニューがポップアップします。

特定チャンネルを設定する場合は該当チャンネルの上でマウス右をクリックするとそのチャンネルが選択されます。

画面モード

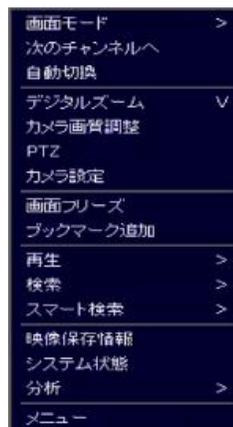
ライブ画面の画面モードを変更することができます。1,4,9,16画面モードから選択します。

次のチャンネルへ

現在の分割画面モードから次のチャンネル又はグループの画面を表示させることができます。

自動切換

[自動切換]を選択すると、 アイコンが画面右下に表示され、ライブ画面が順次切換します。自動切換が可能な1,4,9画面モードのみ(4チャンネルモデルの場合1画面のみ)有効になります。



デジタルズーム

- 1画面モードのみ有効になり、[デジタルズーム]機能を選択すると **ZOOM** アイコンが画面の右下に表示されデジタルズームモード(PTZ機能のズームとは異なる機能)になります。
- ズームモードからマウス左ドラックで拡大するエリアを指定すると該当エリアが拡大、マウスホイールを利用して拡大/縮小ができます。拡大した状態からマウス左でドラッグして、映像の中の他の位置に直接移動できます。
- 映像が拡大した状態から元の状態に戻るにはマウス右をクリックします。
- デジタルズームモードを終了するにはマウス右クリックでメニューを表示させ、[デジタルズーム]のチェックを外します。

カメラ画質調整

カメラの画質を設定するメニューです。(“4.2.1カメラ”メニューの調節 参照)
明るさ、対比(コントラスト)、色などの変更で実際の環境に合わせた画質の設定が可能です。

PTZ

PTZ モードに入りカメラを制御します。(“3.6 PTZ操作”参照)

カメラ設定

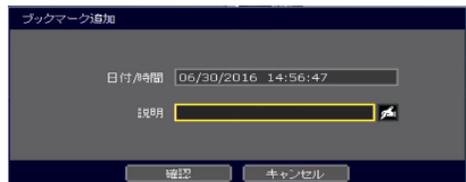
カメラ設定メニューへ移動します。(“3.4.1 個別カメラ設定”参照)
カメラ解像度、フレームなどカメラに関する設定が可能です。

画面フリーズ

画面が停止します。でも、時間表示は正常に動きます。再び映像をモリタリングするには [画面フリーズ]をもう一度押します。

ブックマーク追加

現在表示されている画面についての説明と一緒にブックマークを作成することができます。右の写真のようなブックマーク追加画面が表示されると  ボタンを利用して説明を入力 [確認]ボタンを押します。

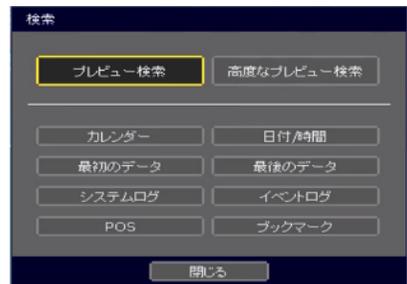


検索

録画された映像は様々な方法から検索が可能です。“カレンダー、日付/時間、最初のデータ、最後のデータ、システムログ、イベントログ、POS、ブックマーク”から検索方法を選択して映像を検索します。(“3.7録画映像検索”項目参照)

スマート検索

録画された映像を時間、分単位で一画面の中に分割画面として表示できます。プレビュー検索、高度なプレビュー間検索の中から検索方法が選択できます。



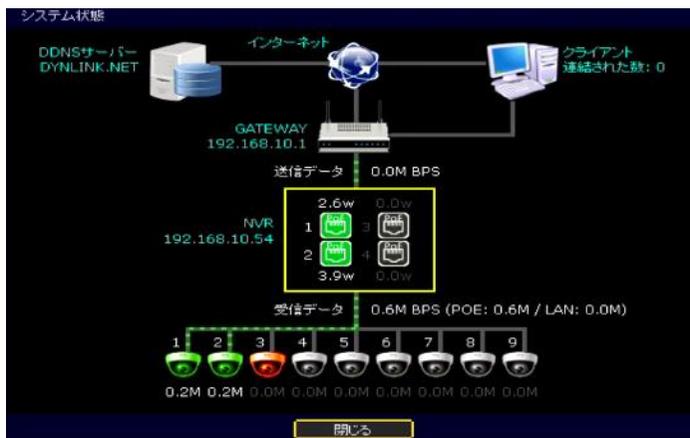
映像保存情報

NVRの録画状態を確認することができます。右の写真のように現在NVRに装着されているHDDの映像保存期間、一日平均容量、現在保存日数、予想保存日数などが表示されます。



システム状態

NVRのシステム状態、ネットワーク接続情報、接続されているクライアント数、カメラPOE状態を確認することができます。緑の線はカメラの正常動作、インターネット、DDNS接続状態を表します。



分析

システムに性能、ネットワークデータ量、チャンネル別帯域幅状態が確認できます。PoEカメラ状態は別途確認できます。



[システム性能モニタリング]



[ネットワークモニタリング]



[POEモニタリング]

POE 状態

NVRに接続されているPOEカメラの状態を複数同時に確認できます。メニュー>ネットワーク>PoE設定の状態から確認、チャンネルに接続されているカメラ全てを再起動することができます。

POEポート	接続	電源	割り当てチャンネル
POE-LAN1	O	2.5 watt	CH 1
POE-LAN2	O	3.9 watt	CH 2
POE-LAN3	X	0.0 watt	CH 3
POE-LAN4	X	0.0 watt	CH 4

POEポート再起動

閉じる

メニュー

NVR設定画面を実行します。画面下のメニューボタンをクリック、又はフロント「メニュー」ボタンからもメニューを表示させることができます。表示された設定画面ではマウスやリモコン、フロントパネルのボタンなどを使ってサブメニューを開くことができます。

3.6 PTZ制御

PTZが接続されているチャンネルが1チャンネルモードの場合のみ使用可能です。

マウス右ボタンをクリックして表示される(下の写真参照)ポップアップメニューからPTZモードへ移動します。PTZモードになると

PTZ アイコンが画面の右下に表示されます。



PTZ制御

PTZモードからマウスを利用してPTZ動作を制御します。

マウスの左ボタンを押したままマウスカーソルで上下左右へ移動すると、カメラがその方向へ動きます。メイン画面中心部(+表示)からマウスを遠くへ持つて行くほどカメラの移動スピードが速くなります。反対に中心部に近くなるほど移動スピードは遅くなります。



Note PTZ機能はUSBマウス、IRリモコン、前面のボタン、キーボードで制御可能です。

ズーム/FOCUS

マウスホイールを上/下に動かしズーム/フォーカスのイン/アウトを調節します。初期はズーム機能が有効になっています。フォーカス機能を使用するにはPTZモードからマウス右クリックでPTZメニューを表示させます。ズームにチェックが入っている状態からフォーカスを選択するとフォーカス機能が有効になります。



プリセット

プリセットメニューを選択します。写真のような数字画面からプリセット番号を選択し [ENTER] ボタンを押すと、そのプリセットの位置へ移動します。(設定は“4.2.3 PTZ”参照)
プリセット最大数は255です。(但し、PTZモデルによっては制限される場合もあります。)



ツアー

ツアー機能をオン/オフします。‘ツアー’は設定されているプリセット位置を順次に移動しながら画像表示する機能です。オフになるまで繰り返し移動します。

ガードツアー

指定したプリセットから特定プリセットの位置を順次に移動、それぞれ設定されている時間の間表示させる機能です。接続されているPTZカメラがツアー機能をサポートしていても、ガードツアー機能は使用可能です。ポップアップメニューからはガードツアーのオン/オフだけが操作できます。ガードツアーの設定は、“メニュー>装置>PTZ”から(“4.2.3. PTZ”参照) できます。

Caution プリセット位置別に時間間隔(interval)を設定することが可能です。
但し、PTZ種類によっては時間内の該当位置へ移動、若しくはフォーカス調節などが物理的に不可能で、一部プリセット位置をパスすることもあります。この場合には、適切な時間間隔の調整を行ってください。

ホームへ戻る

PTZ装置に入力されている基本の位置へ移動します。PTZモデルによってはサポートしない場合もあります。

設定

PTZ設定メニューへ移動します。(“4.2.3. PTZ”参照)

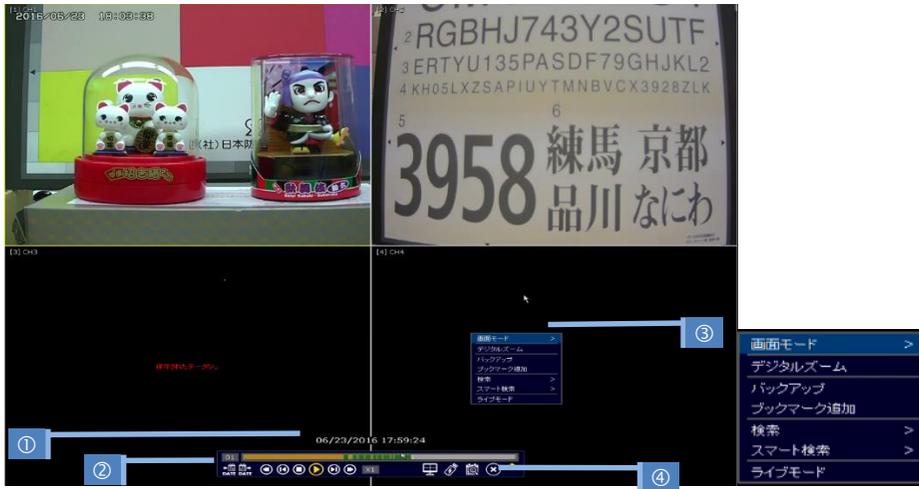
PTZ終了

PTZモードを終了して、ライブ画面へ移動します。

3.7 録画映像再生

前面ボタン、IRリモコンの再生(Playback)ボタン、又はメニューバーの再生ボタン()から再生モードへ移動できます。再生(Playback)モードで最近録画した映像を再生することができます。録画したファイルを再生する時、マウス又は前面パネルのジョグ/シャトルを利用して再生方向(再生/逆再生)及び再生速度(2, 4, 8, 16, 32倍速)が調節できます。

Note 製品によりジョグ/シャトル機能がサポートできない場合があります。



再生時間(①)

再生されている映像の日付と時間が表示されます。

メニューバー(②)

再生コントロール、録画データの有無確認、画面モードなど様々な機能が利用できます。（“1.3.4 再生モードのメニューバー”参照）

ポップアップメニュー(③)

- ◆ 画面モード : 1, 4, 9, 16 画面モードから選択できます。
- ◆ デジタルズーム : デジタルズームモードが利用できます。
- ◆ バックアップ : 録画されたデータのバックアップが可能です。
- ◆ ブックマーク追加 : 現在再生中の映像をブックマークに追加すると、データ検索時に便利です。
- ◆ 検索 : 録画したデータを様々な方法から検索することができます。（“3.9録画映像検索”参照）
- ◆ スマート検索 : 録画された映像を時間、分単位で一画面の中に分割画面として表示できます。
- ◆ ライブモード : 再生モードを終了するとライブモードへ戻ります。

再生モード終了(④)

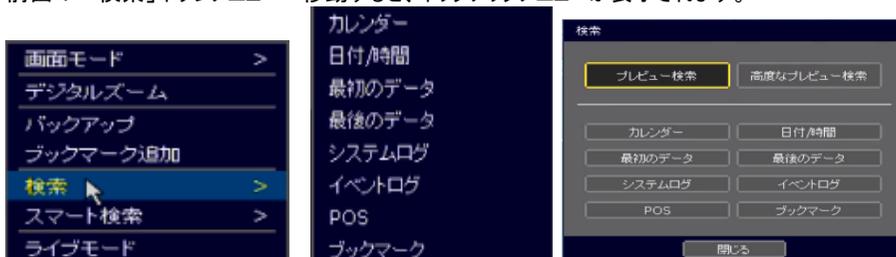
再生モードを終了するには終了ボタン  を押します。

3.8 録画映像検索

様々な方法で録画データを検索することができます。

Note 次の方法から検索メニューへ移動できます。

- ① 再生モードから「ポップアップメニュー→検索」メニュー
- ② ライブモードから「メニューバー→検索」 ボタン
- ③ 前面の「検索」ボタンメニューへ移動すると、ポップアップメニューが表示されます。



3.8.1. カレンダー検索

日付を選択して表示されるインテリサーチバーから録画データが存在するかを確認、特定の時間の映像を簡単に検索することが可能です。



インテリサーチバーの白い垂直線(①)を検索する時間に移動させることができます。

インテリサーチバーのチャンネル別各色は録画モードを表します。表示色についての詳細説明は“4.4.2録画日程”をご参照ください。

時間グラフ(インテリサーチバー)は四つのチャンネルグループ別に表示します。他のチャンネルを検索するには(②)のグループボタン(1~4ch、5~8ch、9~12ch、13~16ch)を選択します。カレンダーの日付の前の“*”表示(③)は該当の日に録画映像がある時の表示です。

3.8.2. 日付/時間検索

録画映像を検索するために、日付と時間を入力します。

前面の方向ボタン又はマウスを利用して年/月/日と時間を選択します。

3.8.3. 最初のデータ

ハードディスクに記録されている最も古い映像を表示します。

3.8.4. 最後のデータ

最新(=最近)の録画映像を表示します。

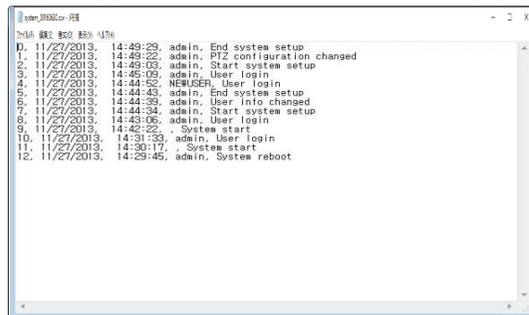


3.8.5. システムログ

システムログ検索では特定システムログ情報を簡単に検索することができます。



- ① 検索する日付を設定します。
- ② 検索するログの種類を選択します。ログの種類はシステム、設定、ネットワークで、全てのログ(口全体)を一度で検索することも可能です。
- ③ 「検索」ボタンを押してログを検索するとリストにログ時間とログ内容が表示されます。
- ④ 「保存」ボタンを利用して検索したイベントリストを外付け装着したUSBメモリーへ「TXT」ファイル形式で保存できます。
- ⑤ コピーしたファイルを見る
「保存」が終わるとUSBメモリーのようなバックアップメディアの中から日付のフォルダを確認できます。そのフォルダ内に「systemlog」ファイルがあります。メモ帳などの基本プログラムでログを確認できます。



3.8.6. イベントログ

イベントログ検索は特定イベントを迅速かつ容易に探すことができます。



- ① 検索する日付を設定します。
- ② 検索するログの種類を選択します。ログの種類はセンサー、モーションセンサー、ビデオロス、HDD FULLなどで、全てのログ（口全体）にチェックを入れると全ログを一度に検索できます。
- ③ [検索]ボタンを押してログを検索するとリストにログ時間とログ内容を確認できます。
- ④ [保存]ボタンを利用して、検索したイベントリストを外部から装着されたUSBメモリーへ「TXT」ファイル形式で保存できます。USBメモリーを接続して、装置の認識のために [スキャン]ボタンを押して装置を探します。[保存]ボタンをクリックしてコピーできます。

Note アラーム入力設定が完了したのにも関わらず、アラームが動作しない場合は製品の背面パネルのアラーム接続ポートを確認してください。

Note システムログ及びイベントログは1ページ当たり20個表示しているため、次のページのログを確認するには   ボタンを利用します。

3.8.7. POS

情報(カメラ,日付&時間,キーワードなど)を入力して,検索ボタンを押すと該当POSデータが表示されます。キーワードを入力しない場合は、日付と時間帯の全てのデータが検出されます。取得したデータを選択し、再生ボタンをクリックすると、保存されたPOSデータに対応する録画映像を再生することができます。



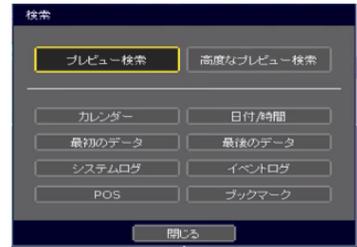
3.8.8. ブックマーク

[ブックマーク追加]メニューで追加されたデータを変更、削除することができます。検索するデータを選択して再生ボタンを押すと、その映像を見ることができます。



3.9 スマート検索

録画された映像を時間、分単位で一つの画面に分割して表示させることができます。プレビュー検索又は高度なプレビュー検索から選択し、映像を検索することができます。



3.9.1. プレビュー検索

検索するチャンネルを日付でプレビュー検索を選択すると24時間単位で画面に表示されます。この画面から検索する時間帯のデータをダブルクリックすると1分単位、60個の分割画面が表示されます。

ユーザーはプレビュー検索を利用して簡単に検索時点を探し出すことができます。

各プレビュー検索のサイズと個数はユーザー選択が可能で、解像度によって少し異なりますが一画面に最大 $14 \times 14 = 196$ 個のプレビューが可能です。

プレビューの数が一画面で全部表示できない場合は、複数のページに表示させることもあります。

プレビューモードから他のチャンネルへ移動、他の日付への移動も可能です。

分単位プレビューから時間単位のプレビューへ移動することも可能です。



3.9.1. 高度なプレビュー検索

プレビュー検索と機能的には似ていますが、プレビュー検索は静止画のイメージが表示されるのに対し、高度なプレビュー検索は動画から他の時間帯の検索ができるのが大きな違いです。

再生、逆再生が可能で時間、分単位での検索も可能です。

(1分単位, 5分単位, 30分単位, 1時間単位, 6時間単位, 1日単位)

一日単位の場合、違う日付の映像が一画面に同時検索されます。



3.10 DST 設定と映像再生

DST (Daylight Saving Time;サマータイム)適用期間中は、NVR時間の周期が地域別タイムゾーンに正しく合わせられてなければなりません。DST設定後のNVRタイムはDST適用期間が終わって正常の時間周期へ戻るまで1時間移動します。

3.10.1. DST 設定

NVRからDSTを設定するために、メニュー > システム > 情報から4番目の“日付/時間”をクリックします。DST設定画面が表示されると“DST使用”にチェックしてDST時間を設定します。



3.10.2. DST映像再生

DSTスタート時点と終了時点のデータは1時間重複します。1時間重複するデータは再生モードのインテリサーチバー上青色に表示されます。



重複した期間のデータエリアを選択するとDST適用時間のデータとDSTを適用してない時間のデータから選択できる“データ選択”画面がポップアップします。

“確認”クリック - DST映像再生



【“DST” 映像再生】

“キャンセル”クリック - Non DST映像再生



【“Non-DST” 映像再生】

4. 設定

メニューは「システム」、「装置」、「アラーム」、「録画」、「ネットワーク」、「バックアップ」などの設定で構成されています。



区分	詳細区分
システム	情報
	ユーザー
	ディスプレイ
	ハードディスク
	設定
装置	カメラ
	オーディオ
	PTZ
	POS
	キーボード
アラーム	センサー
	カメラアラーム
	その他アラーム
録画	カメラ登録/管理
	録画スケジュール
	簡単設定
ネットワーク	ネットワーク
	DDNS
	通知
	モバイル通知
	P2P
バックアップ	バックアップ

メニューバーのメニュー  アイコンやマウス右を利用してメニューを表示させることができます。
メニュー画面を利用して、“システム”から“バックアップ”までメインメニューと詳細メニューまで移動できます。

4.1 システム

4.1.1. システム情報



本体名

ユーザーは  ボタンを利用してスクリーンキーボードを表示させ、NVR本体名を登録することができます。



キーボードID

キーボードでNVRをコントロールする場合、キーボードからのID設定とサイトID設定を一致させる必要があります。また、“メニュー>装置>キーボード”メニュー(4.2.5キーボード項目参照)からキーボードモデルとボーレート(BAUDRATE)設定を正しく行ってください。

リモコン ID

IRリモコンでNVRをコントロールする場合Remote controllerからのIDとサイトIDを設定する必要があります。

日付/時間

NVRシステムの現在の日付/時間を手動で設定することも可能ですし、時刻同期サーバーを利用して日付と時間を自動で設定することも可能です。



次のような時刻同期モードが利用できます。

- ◆ サーバーモード
動作中の一台のNVR(本製品)を時刻同期サーバーとして設定すると、同じネットワーク上の他のNVRはサーバーとなっているNVRからの時刻情報を利用して時刻同期を行います。
- ◆ クライアントモード
NVRの時刻をクライアント、若しくは他のNVRの時刻に同期させます。時刻を同期させるNVRやRemote Manager PC (RMS)それからCentral Management PC(CMS)のIPアドレスを[時刻同期サーバー]項目に入力します。時刻同期ポートをサーバーと合わせます。[時刻同期周期]に設定された時刻間隔通り定期的にサーバーと時刻を同期させます。
- ◆ NTP モード
NTPサーバーは標準のインターネット時刻サーバーを活用します。“pool.ntp.org”の使用をお勧めします。このモードを有効にする場合は、該当地域のタイムゾーンを設定して同期化をクリックします。
この他にも‘DST(サマータイム・3.7参照)機能’と‘標準時間帯’,それから‘日付/時間の表示形式’なども設定可能です。

Note [ヘルプ]ボタンではいくつかの重要な設定方法についてご案内しています。
例)日付/時間設定方法についてヘルプが必要だったら、メニュー左側にある“ヘルプ”ボタンをクリックしてください。

言語

本製品の表示言語を選択することができます。

バージョン

システムバージョンの確認で、DVD/CD/USBメモリースティック/FTPサーバーを通して‘ファームウェアアップグレード’が簡単にできます。

Caution アップグレード中に「キャンセル」ボタンを押さないでください。システム故障の恐れがあります。
アップグレード後初期設定値が変更される場合があります。アップグレードの後は設定値が変更されているか確認してください。

Procedure

USB メモリー装置を利用したアップグレード方法

- 1) FAT/FAT32でフォーマットされたUSB 2.0バージョンと互換性のあるUSBメモリーをNVRのUSBポートへ挿入します。
- 2) “スキャン”ボタンをクリックすると、NVRが該当USBドライブを認識してメーカー、モデル名が確認できます。
- 3) NVRの名前とバージョンを選択し“確認”をクリックします。
(*)パーティションと暗証番号がエンコードされているUSBメモリーは使用できません。

[ポップアップ画面から自動アップグレード]

- ① 方法から“FTP”を選択します。
- ② メーカーで運用しているFTP情報(ホストアドレス,ユーザー/パスワード)が下記の写真のように表示されます。バージョンアップ用FTPを別途運用するためには専用FTPサーバーの構築が必要です。
- ③ チェック時間を設定して [保存]を選択します。



- ④ システムは定期的にFTPにある最新ファームウェアをチェックします。もし、FTPに最新のファームウェアがなかった場合はメッセージが表示されます。
- ⑤ 直ぐにアップグレードに進める場合は [チェック] ボタンを押して最新ファームウェアかを確認した後、[開始] ボタンをクリックするとアップグレードが開始、完了後にシステムが再起動します。

映像信号

国によって映像信号を選択することができます。(NTSC / PAL) **製品背面にある[NTSC/PAL選択スイッチ]で設定できます。切換の後は再起動が必要です。** NTSC/PALの設定が正しくない場合は映像のふれや、ブリンク、白黒画面などの現象が起きる可能性があります。

IPアドレス

デバイスのIPアドレスが表示されます。‘メニュー>ネットワーク’ から IPアドレスを設定することが可能です。

MACアドレス

各NVRシステムに対する固有の識別ナンバーです。

キーパットの音

キーパットの音をオン/オフすることができます。

4.1.2. ユーザー

システムのマスターユーザーの管理者は全体の機能が利用できる権限を持っています。

管理者はユーザーを追加/修正/削除することができますし、各ユーザーに権限のレベルを設定、ユーザー別に利用できる機能を制限したり、チャンネル別に権限を与えたり、ユーザー別システム使用に差をつけることができます。

Note 最大ユーザー数は管理者を含めて16人までです。

ユーザー管理

管理者はシステムの各機能について使用可能な権限を制御することができます。追加されたユーザーからの遠隔ソフト接続、設定の場合も権限が適用されます。



① ユーザー追加/変更

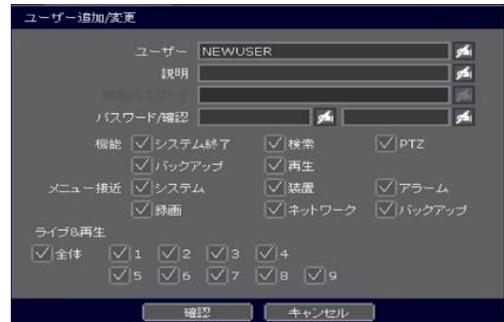
新しいユーザーを追加するために [追加] ボタンを押して 'ユーザー追加/変更' 画面が表示されたら、ユーザーID、説明、パスワードを設定します。ユーザー別権限を設定することができます。同じく 'ライブ & 再生' 項目は、ユーザーが見ることができるチャンネルを選択します。チェックしたチャンネルのみ遠隔ソフトでもモニタリング可能になります。

② ユーザー削除

ユーザーリストから削除するユーザーを選択します。(文字色が緑になります。) 削除ボタンを押してユーザーを削除します。

③ オプション

- [自動ログイン]を設定するとNVRが起動した時、IDとパスワードを求めず、システムが開始されます。NVRが再起動してもIDとパスワードは不要です。
- 自動ログオフ時間を設定すると、設定した時間のあいだNVR操作がなかった場合NVRが自動的にログオフされます。IDとパスワードを再度入力すると再びNVR操作が可能です。



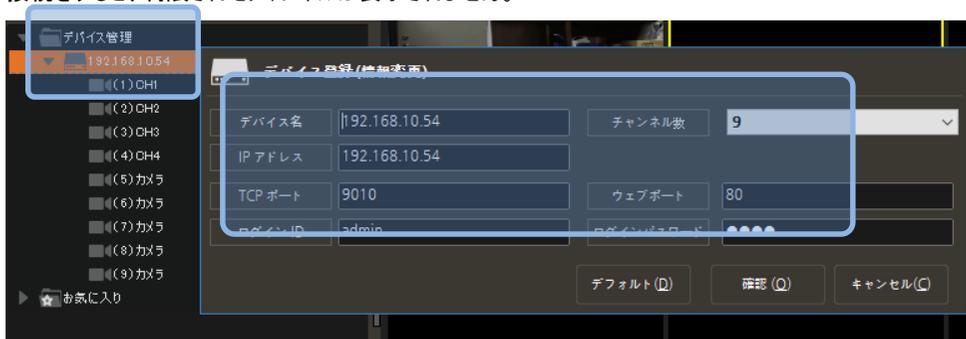
❖ NVRの承認レベル設定の例: ユーザーへ“画面モニタリング”権限のみ与える方法

- 1) 新しいユーザー名を追加、詳細説明とパスワードを入力します。
- 2) [機能]と[メニューアクセス]から全てのオプションを解除します。
- 3) [ライブ & 再生]から、チャンネル選択、[確認]をクリックします。
- 4) [保存]をクリックします。
- 5) 制限された機能を確認するには、メニューを終了(ⓧアイコン)して、新しく追加されたユーザーIDでログインします。ユーザーが制限されている機能を選択すると、“許可されていない機能です。”とメッセージが表示されます。

[Tip] IDは1～15桁、パスワードは0(なし)～12桁範囲内で入力できます。



- ❖ 遠隔ソフトウェア(CMS)からのユーザー承認レベル設定の例：“制限されたチャンネル接続”からユーザー設定
- ユーザーに対する承認レベルは NVRとRemoteManagerが連動します。特定ユーザーに対して“各チャンネルのライブ、再生、PTZコントロール、バックアップ”のようなNVR機能が制限されると、遠隔ソフトでも同じユーザーに同じ制限が適用されます。
- 1) サイト登録画面から新規サイトを登録します。
 - 2) NVRから機能が制限されているユーザーのIDとパスワードを入力します。
 - 3) 接続をすると、制限されたチャンネルは表示されません。



Note

遠隔ソフトウェア (CMS) のユーザーリスト

- 1) 遠隔ソフトからの特定ユーザーの権限はNVRから設定した権限が適用されます。
- 2) 遠隔ソフトのユーザーはNVR側で先に登録しなければなりません。NVRには登録されていないと、遠隔ソフト側だけ登録されていると、NVRへ接続できません。

4.1.3. ディスプレイ

自動切換間隔、画面解像度、OSD表示及びスクリーンセーバーなどの設定が可能です。



自動切換間隔

順次切換の時間を設定することができます。

画面解像度

4種類のビデオ解像度をサポートしています。: 800x600, 1024x768, 1280x1024 and 1920x1080. ユーザーはモニター解像度によって適切な解像度を設定することができます。

OSD

画面に表示されるOSDメニューを選択することができます。

スクリーンセーバー

VGA出力及びTV出力に対するスクリーンセーバーを動作させます。
スクリーンセーバーの動作時間は1分から180分まで設定可能です。

4.1.4. HDD(ハードディスク)



DISK FULL(①)

HDDがフル状態になると、“上書き(Overwrite)”と“録画中断(Stop recording)”から選択します。

- 上書き : 古いデータから順番に削除し、新しいデータを保存します。
- 録画中断 : 録画を中断して既存の録画データを保護します。

HDDチェック(②)

“チェック()”ボタンをクリックするとHDDの状態情報を確認することができます。HDDモデル名,シリアルナンバー、容量,BADブロック,使用時間,温度などが確認できます。



HDD フォーマット(③)

新しいHDDを設置する場合、又はHDDに問題があると判断される場合はフォーマットが必要です。フォーマットの際、ネットワークに接続されている場合や映像再生中の場合はシステムパフォーマンスが低下してエラーが発生する可能性があります。フォーマット失敗の場合は再起動してからもう一度行ってください。

チェックボックスの項目を利用して選択したHDDのみフォーマットを行うこともできます。

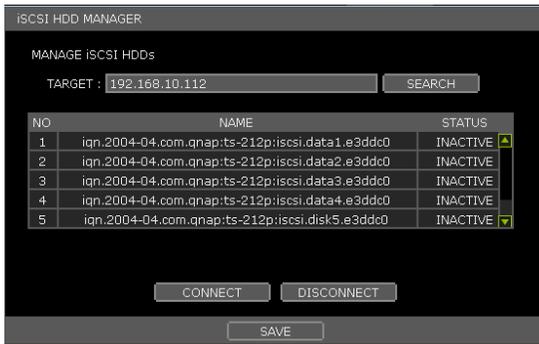


iSCSI ハードディスク管理(④)

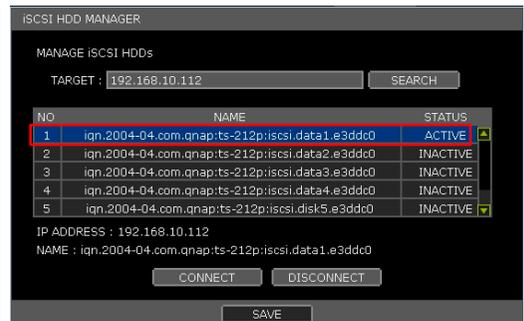
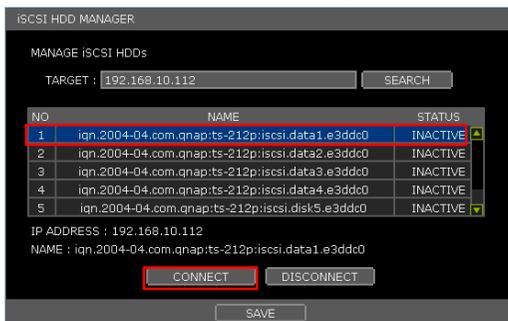
iSCSI ネットワーク 外付けHDD追加が可能です。

iSCSI 設定方法

① iSCSI ハードディスク管理



- ② 対象からiSCSI IPアドレスを検索します。
- ③ 複数若しくは個別のHDDを確認した後、接続するHDDを選択します。



- ④ 上の写真のように状態が無効から有効に変わります。
(HDDにセキュリティがかかっている場合はIDとパスワードを入力します。)



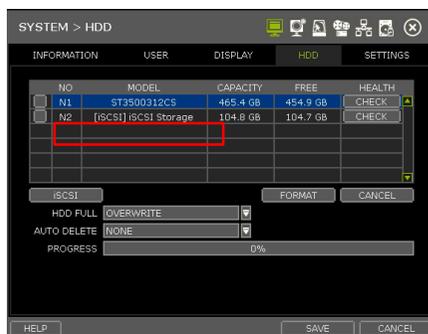
- ⑤ 有効状態を確認した後、保存すると下のように警告メッセージが表示されます。

「iSCSI ハードディスクを接続しますか？」

登録時は録画が中断されます。

iSCSI HDD 登録が完了するとローカルハードディスクのように iSCSI ハードディスク使用が可能になります。

iSCSIハードディスクはモデル名の前に[iSCSI]と表示されます。



Note iSCSI(Internet Small Computer System Interface)はコンピューティング環境でデータストレージを繋げるIP基盤のストレージネットワークの標準です。iSCSIはIP経由でSCSIコマンドを送り、イントラネットを通してデータ送受信を容易にし、遠距離のデバイス管理に効果的です。iSCSIは近距離ネットワーク、遠距離ネットワーク、又はインターネット経由のデータ転送、場所に影響されないデータ管理(保管、復旧など)が可能になります。

- Note**
- 1) フォーマット時間はHDD容量に応じて異なります。
フォーマット時間が長すぎる場合は、HDD状態を確認してください。
 - 2) フォーマットが完了すると、ハードディスクに保存されているデータは全て削除されます。
 - 3) システムは効率的なメモリー使用のために、装着されたHDDに一定の容量を残します。

Caution 警告メッセージ
システム安定性のためにシステム内部温度が適正範囲を超えたとき、警告メッセージがポップアップします。冷却ファンの故障により発生する可能性がありますので、ファンが正常に動作しているかを確認、それからシステム周辺の温度が適切に維持されているかを確認してください。

4.1.5. 設定

初期化

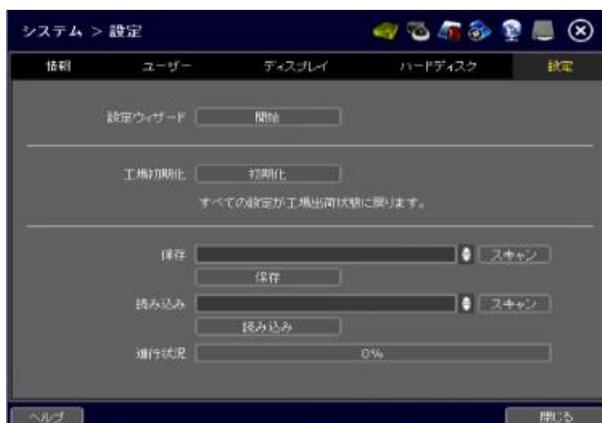
認証されているパスワードを利用してシステムを“初期化”することができます。初期化されると、ユーザーが既存に入力してある全ての設定値は削除され、システム設定はデフォルト(工場出荷状態)に戻ります。但し、録画データは削除されません。

保存/読み込み

システム設定値をコピー、コピーした設定値を保存することができます。

- 保存 : ユーザーがシステムの設定値をUSBメモリーに保存することです。
- 読み込み : CD/DVD/USB メモリーを利用して他のシステムの設定値を読み込むことです。

保存した設定値を読み込むためにはNVRのF/Wバージョンが同じであることが前提です。



4.2 装置

4.2.1. カメラ

カメラ名、モーション感知エリアと映像を設定することができます。



チャンネル名

チャンネルを区分するために、チャンネル名を入力します。チャンネル名はNVRと遠隔ソフトウェアに共通に適用されます。

非表示

特定チャンネルが非表示設定になっていると、管理者以外はライブや再生画面をモニタリングすることが出来ません。非表示はNVRと遠隔ソフトウェアに共通に適用されます。

プライバシー設定

チャンネル画面上の特定エリアを録画、ライブ両方でも見れないように設定します。この機能は特定カメラのみサポートしているため、サポートされていないカメラでは設定できません。[設定]ボタンを押すと写真のようにブロックのエリア設定モードが表示されます。



1チャンネル当たり4つのエリア(②)設定が可能です。

設定するエリアの番号(②)を選択した後、マウスドラッグとエリア設定メニュー(①)を利用してエリアを設定します。保存(④)ボタンを押して設定したエリアを保存します。次に設定するエリアのインデックス(②)に変更してエリアを設定します。

プライベートエリアを設定するとライブ画面上該当エリアが設定された色(③)でブロックされます。

カメラ設定

カメラの明るさ、対比(コントラスト)、色などの調節が可能です。カメラモデルによってはサポートする設定内容が異なる場合があります。カメラがサポートする項目のみ設定可能な状態になります。

[設定]ボタンを押して設定画面を表示させます。



 ボタンでチャンネル移動できます。[終了]メニューを利用して設定モードを終了します。

4.2.2. オーディオ

ライブモニタリングモードからオーディオ入力、出力が選択できます。特定チャンネルにオーディオ入力を設定することも可能です。NVRモデルによってオーディオチャンネル数は異なります。

[ライブ出力]項目からチャンネルに“オーディオ出力1”を設定すると、ライブ画面から該当オーディオを再生することができます。

[ライブ出力]は1チャンネルのみ選択できます。



4.2.3. PTZ

PTZ 設定が可能です。
設定の詳細内容は「3.6 PTZ操作」を参考にしてください。

P/T/Z 動作のために下記項目を確認してください。

- ◆ システムに接続されたPTZカメラのプロトコルが正しいか確認します。
- ◆ PTZカメラのボーレート(baud rate)を含めた通信設定が PTZプロトコル用で割り当てられた数値と一致しているか確認します。
- ◆ PTZカメラのアドレスが設定メニューから割り当てたアドレスと一致しているか確認します。
- ◆ PTZコントロールの線が正しく接続されているかを確認します。

Procedure 例 Pelco-D プロトコルを利用したPTZカメラ設定方法

- 1) PTZカメラとRS-485ポートを介してシリアル通信を確認します。
- 2) プロトコルリストから“Pelco-D”を選択、IDとボーレート(BAUDRATE)を設定します。
- 3) “保存(Save)”ボタンをクリックして設定を完了します。



プロトコル

接続されたPTZカメラのプロトコルを選択します。

ボーレート(BAUD RATE)

PTZ仕様によって2,400bpsから57,600bpsまでボーレートを選択することが可能です。

アドレス

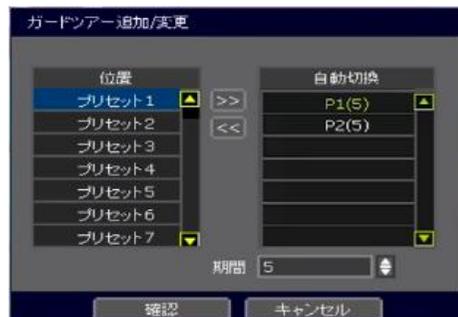
接続されたカメラのP/T/Zドライブアドレスを設定します。PTZカメラアドレスと同じアドレスを設定します。

コントロール(*PTZモデル別にサポートする機能は異なります。)



設定  ボタンをクリックすると、PTZカメラのOSDメニューが画面に表示されます。ユーザーは速度、プリセット、ツアー、自動回転機能などを設定/使用することができます。

- ① 方向ボタン：カメラを上下左右に制御できます。
- ② M (PTZ カメラモデルによって異なる)：PTZ カメラ OSD メニューが NVR モニターに表示され、メニューの方向ボタン(①)で PTZ メニューを設定することができます。
- ③ ズーム/FOCUS/IRIS: 各機能の IN(+)/OUT(-)を調整します。
- ④ 速度 PTZの動き速度0~100を設定  ボタンを押して設定値を戻せます。
- ⑤ プリセット
 - ◆ 追加：方向ボタン(①)とレンズ調節ボタン(②)を利用して PTZ の位置を調整します。  ボタンでプリセット番号を選択した後、[追加]ボタンを押して現在の位置を該当番号に追加します。(当システムは 1~255 までのプリセットをサポートしていますが、PTZ カメラによって制限される場合もあります。)
 - ◆ 削除： ボタンでプリセット番号を選択した後、[削除]ボタンを押すと、該当番号に保存されているカメラ位置が削除されます。
 - ◆ 移動： ボタンでプリセット番号を選択した後、  ボタンを押すとカメラが該当番号のプリセット位置へ移動します。
- ⑥ ツアー：プリセット位置が順次移動しながら表示されます。終了まで繰り返し移動します。
- ⑦ 自動回転：カメラを同じ方向で 360 度回転しながら表示させます。終了までずっと回転します。
- ⑧ ガードツアー：設定してある特定プリセットだけ決まった順/間隔で移動し、モニタリングできます。終了まで繰り返し移動します。
 - ◆ 設定：設定するプリセットの位置に留まる時間(Interva(SEC)項目)を先に設定した後プリセットを選択(緑に変わる)  ボタンでシーケンス (SEQUENCE) リストに追加します。'P1(5)' のように追加されます。'プリセット番号(時間)' を表します。
 - ◆ 削除：既に登録してあるプリセットを削除する場合、削除するプリセットを選択した後  ボタンを押すとシーケンスリストから削除されます。
- ⑨ ホーム：PTZ 装置に入力されている基本位置へ移動します。PTZ モデルによってサポート出来ない場合があります。



4.2.4. POS

RS-232、又はLANを通してPOS装置をNVRに接続することが可能です。



番号

Serial Muxのポート番号 例) NO1 = COM1, NO4 = COM4.

カメラ

POS装置と連動するカメラ

形態

NVRとPOSの接続形態

プロトコル

NVRとPOSの通信プロトコル

保存

POSデータの保存有無

表示

POSデータの画面表示有無

設定①

設定画面を開く

- POS設定

- ◆ 番号 : 現在POS設定番号
- ◆ カメラ : POS装置に接続するカメラ選択
- ◆ 形態 : ネットワーク接続形態選択(COM(RS-232) or TCP/IP (LAN))
- ◆ POS IP : ネットワークPOS接続時, POS装置のIP入力
- ◆ プロトコル : NVRとPOSの通信プロトコル選択
 - ① [TEXT-IN]: ASCIIコードを受信
 - ② [SNVR-POS]: メーカー独自プロトコル
 ※詳しい内容はPOS装置業者に確認してください。
- ◆ 開始文字 : 指定した文字を受信してからデータを表示/保存します。入力された値がない場合は、取引別区分無しで全てのデータを表示/保存します。
- ◆ 終了文字 : 指定した文字を受信すると表示/保存を終了します。開始文字が指定されてから正常に動作します。
- ◆ 改行 : 改行文字を設定します。(16進法 HEX値を使用します。)
 - ① [CRLF] / [CR] / [LF]: ASCII通信をするPOS装置で主に使用する改行文字です。(POS装置業者にお問い合わせください。)
 - ② [Custom]: 上の一般的な文字以外に使用します。0~9, A~Fのみ入力可能で、偶数の文字を入力しなければなりません。例) 16進数 0x0D 0x0A → 0D0A
- ◆ 保存 : POSデータを録画データと一緒に保存します。

**- LIVE画面設定**

- ◆ 出力ライン数 : 画面に表示されるライン数を設定します。
- ◆ 画面クリア周期 : 画面表示終了の時間を設定します。最後のデータが入力された数字、設定した時間(秒)の間データがないと画面表示は終了します。“0”を選択すると画面表示は終了しません。(開始文字を設定した場合は除外)
- ◆ 位置 : POSデータを表示する位置を設定します。
- ◆ フォント色 : 画面に表示する文字の色を選択します。選択された色で“サンプル文字”が表示されます。
- ◆ 表示 : ライブ画面でPOSデータ表示有無を選択します。
- ◆ スクロール反転 : 画面に表示される順番を設定します。選択すると、一番最近入力した設定値が一番上に表示されます。

再生画面設定②

再生モード画面設定を開く

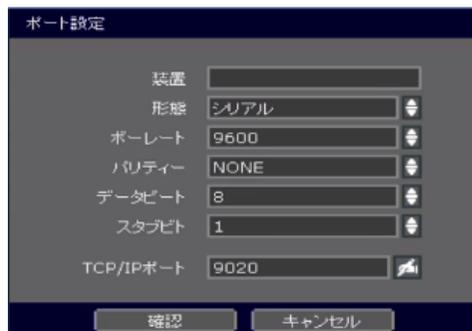
- ◆ 出力ライン数 : 画面に表示される行数を設定します。
- ◆ 画面クリア周期 : 画面表示終了の時間を設定します。最後のデータが入力された数字、設定した時間(秒)の間データがないと画面表示は終了します。“0”を選択すると画面表示は終了しません。(開始文字を設定した場合は除外)
- ◆ 位置 : POSデータを表示する位置を設定します。
- ◆ フォント色 : 画面に表示する文字の色を選択します。選択された色で“サンプル文字”が表示されます。
- ◆ 表示 : ライブ画面でPOSデータ表示有無を選択します。
- ◆ スクロール反転 : 画面に表示される順番を設定します。選択すると、一番最近入力した設定値が一番上に表示されます。



ポート設定(③)

通信ポート設定画面を開く

- ◆ 形態 : 通信ポート形態を設定します。
 - シリアル : NVRとPOS装置がシリアル SerialMux無しで1対1接続している場合選択します。
 - SerialMux : NVRとPOS装置がシリアル SerialMuxを介して接続されている場合選択します。
- ◆ ボーレート : 接続されたPOS装置のボーレートを選択します。
- ◆ パリティ : 接続されたPOS装置のパリティを選択します。
- ◆ データビット : 接続されたPOS装置のデータビットを選択します。
- ◆ ストップビット : 接続されたPOS装置のストップビットを選択します。
- ◆ TCP/IPポート : ネットワークから接続されている場合ポートを選択します。



4.2.5. キーボード

外部キーボードコントローラーが接続されている場合、モデル名とボーレート(BAUDRATE)を設定します。



4.3 アラーム

4.3.1. センサー

複数のセンサーを設置してプリ/ポストアラーム集中録画機能などを設定することができます。



ON/OFF

センサー有効 / 無効

カメラ

センサーと連動するカメラ選択

出力

連動する出力選択

ご注意 リレー接点の外部機器電圧許容範囲は24V 1Aまでです。
24V 1A以上の回路に接続される場合、製品故障の可能性がります。

プリセット

センサーが反応した時、カメラをプリセット位置へ移動させることができます。(4.2.3 PTZメニューからプリセット設定を行います。)

期間 (Post Alarm)

センサー入力動作時の録画時間を設定します。この間カメラ映像は事前に設定されていたフレームで録画、設定されていたアラームを出力します。設定されていた時間が経過すると録画は停止、アラームの出力もオフになります。

プリアラーム

センサー入力力を感知する前の録画時間で、最大5秒まで秒単位で設定できます。アラーム作動以前の特定の時間を録画するため、アラームが発生する前の映像を検索することができます。プリアラーム録画映像は設定されていた速度で、連続録画モードで保存されます。

形態

アラーム入力端子に接続されていて、センサータイプをN/O(常時開放)とN/C(常時閉鎖)から選択することができます。N/Oタイプの回路は常に開放されていて、センサー動作はクローズになる時に発生します。

通知

ユーザーは[通知]ボタンをクリックしてモーションやセンサーが動作した時、警告するように設定することができます。

ブザーを選択して音を出すようにする方法と、カメラポップアップを選択してカメラの画面をポップアップさせる方法があります。カメラポップアップとブザーを同時に動作させることも可能です。



Note センサーが正常に動作しない場合、センサータイプ(N/O又はN/C)の設定を確認してください。アラームは接続されているセンサーのタイプとシステム設定からのセンサータイプが一致していない場合は動作しない可能性があります。

Note “カメラポップアップ”はアラームが発生した時、マルチスクリーンモードが1画面モードへ切り替わり表示します。この1画面映像はアラーム発生によって表示されるチャンネルです。

4.3.2. カメラアラーム

モーション領域を設定した状態でモーションが感知された時、設定したセンサー出力チャンネルからアラーム信号が発生します。



ON/OFF

センサー有効/無効

出力

連動する出力選択

Caution リレー接点の外部機器電圧許容範囲は24V 1Aまでです。
24V 1A以上の回路に接続される場合、製品故障の可能性があります。

期間

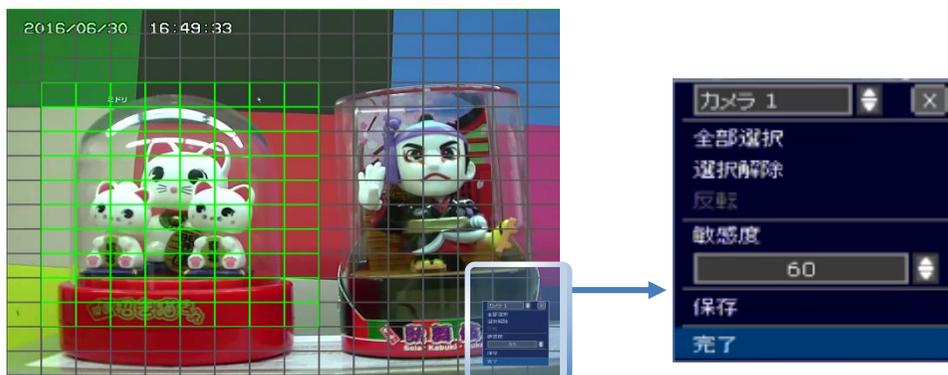
センサー動作時間設定. 1~15秒(sec)まで設定可能です。

プリアラーム

センサー入力を感じる前の録画時間で、最大5秒まで秒単位で設定します。当システムではアラーム作動以前の特定の時間を録画するため、アラームが発生する前の映像を検索することができます。プリアラーム録画映像は設定されていた速度で、連続録画モードで保存されます。

モーション領域

モーション感知領域と感度を設定することができます。画面からブロックを選択するか、マウスドラッグでエリアを設定します。モーション感知領域は緑でその他はグレーの線が表示されます。



Note モーション領域と感度の設定は実際の現場環境を考慮して行ってください。

設定コピー

NVRに接続されている全てのカメラの設定値をコピーします。

- ① チェンネル選択
- ② 属性値選択
- ③ 適用したチャンネル選択
- ④ 確認ボタンをクリックすると適用されます。



4.3.3. その他アラーム

S.M.A.R.T, ビデオロス, 録画失敗, 電源失敗, DISK FULLなどシステムに対するアラーム機能使用有無が設定できます。



S.M.A.R.T.

HDDが正常に動作しない場合アラーム信号が発生します。「4.1.4 HDD」のHDD状態を参照してください。

映像信号損失

カメラが切断された場合発生するアラームです。

録画失敗

ハードディスクやシステム問題で録画できなかった場合発生するアラームです。

DISK FULL

ハードディスクの設定された容量を超えた場合アラームが発生します。「ハードディスク容量がいっぱいになると録画を中断する」ように設定した場合、本製品はアラームを鳴らし録画を中止します。

Note その他のアラームはオンになった場合のみ、イベントログに記録されます。

Note S.M.A.R.T(Self-Monitoring Analysis and Reporting Technology)はハードディスクメーカーでサポートする技術です。異常動作時、場合によってはS.M.A.R.T認識が出来ないこともあります。定期的にHDD状態チェックを行うことをお勧めします。

4.4 録画

4.4.1. カメラ

カメラの登録/削除/設定ができるメニューです。
写真のように“簡易モード”と“詳細モード”から使用できます。



簡易モードでは[自動登録]と[ドラッグ&ドロップ登録]の二つの方法でカメラを登録することができます。
詳しい設定をする場合は[詳細設定]を選択して上の写真の右側のような画面に移動します。

ON/OFF

該当カメラの録画有無を設定します。

プロトコル

接続されているカメラのプロトコル種類(ONVIF, VHT, FOCUS, RTSP など)を表示します。

IPアドレス

接続されているカメラのIPアドレスを表示します。

モデル

接続されているカメラのモデル名を表示します。

ブランド

接続されているカメラのメーカーを表示します。

設定

接続されているカメラの設定ができます。(“3.4カメラ設定”参照)

削除

接続されているカメラを削除することができます。(“3.3. カメラ削除”参照)

チャンネルグループ選択 (①)

16チャンネルの場合一度に最大8台のカメラが表示されます。8台を超える場合はチャンネルグループボタンで他のチャンネルグループを表示させることができます。

ページ削除 (②)

現在表示されているグループのカメラから削除可能なカメラを全て削除します。(“3.3 カメラ削除”参照)

全体削除 (③)

接続されている全てのカメラの中で削除可能なカメラを全て削除します。(“3.3.カメラ削除”参照)

カメラ登録(④,⑤,⑥,⑦)

自動登録、ドラッグ&ドロップ登録、検索登録、手動登録など様々な方法からカメラを追加することができます。(“3.2. カメラ登録”参照)

4.4.2. 録画スケジュール

各カメラ別録画スケジュールを設定します。カメラ別に設定を行うか若しくは“全体”を選択して一つの設定を全体カメラに適用することも可能です。録画は一日に00から23まで各時間単位で設定できます。



無色 (Off)

“オフ(Off)”は録画をしていない状態です。録画フレームを設定してカメラ(CAMERA)“からオン(on)にしても、ユーザーが録画スケジュール(SCHEDULE)からオフ(OFF)設定をしていると本製品は録画を行いません。

黄色 (連続録画 Continuous Recording)

連続録画モードでは常時録画を行います。

緑色 (モーション録画 Motion-Detection Recording)

選択した特定エリアからモーションが感知された場合のみ録画、モーションがない場合は録画しません。

“アラーム>カメラアラーム”メニューからモーション録画設定ができます。もし、ユーザーが“アラーム>カメラアラーム”メニューから該当カメラのアラームを“オフ(OFF)”に設定、モーション録画“モードを設定した場合、モーションが感知されると“モーションアラーム”は発生しませんが、録画は正常に行われます。

オレンジ色(センサー動作録画 Sensor-Activated Recording)

このモードではセンサーが動作した時 “アラーム>センサー感知”から設定した期間(dwell time)分録画します。ユーザーが “アラーム>センサー感知”から該当カメラに連動しているセンサーを“オフ(OFF)”に設定、“センサー録画”モードに設定した場合、センサーから信号が発生しても、録画はできません。

青色 (連続 + モーション録画 Continuous + Motion Detection Recording)

“録画メニュー(RECORD) > カメラ(CAMERA)”で設定した通り “連続(continuous)”で常時録画を行います。モーションが感知された場合は “アラーム>カメラアラーム”からの設定通り録画します。また、システムはネットワーク経由で遠隔管理サーバー(CMS PC)へ “モーション感知アラーム”メッセージを通報します。ユーザーが “アラーム>カメラアラーム”メニューから該当チャンネルのアラームを“オフ(OFF)”に設定、“連続 + モーション録画”モードに設定した場合、システムはモーション領域からモーションを感知しても、連続録画モードで録画します。

茶色 (連続 + センサー録画 Continuous + Sensor-Activated Recording)

“録画>カメラ”で設定した通り “連続(continuous)”で常時録画を行います。設定期間のあいだにセンサーが動作した場合、“アラーム>センサー感知”から設定したセンサー設定どりの録画モードに切り換わります。システムはネットワーク経由で遠隔管理サーバー(CMS PC)へ “センサーイベント”メッセージを通報します。ユーザーが “イベント>センサー感知”を“オフ(OFF)”に設定、“連続 + センサー録画”モードに設定した場合、システムはセンサーから信号が発生しても、連続録画モードで録画します。

ピンク色(モーション+センサー録画 Motion Detection + Sensor-Activated Recording)

通常は録画をしないで、“アラーム>カメラアラーム”メニューで設定した通り、モーションが感知された場合と “アラーム > センサー感知”から設定した通りセンサーが反応した場合のみ録画します。ユーザーが “アラーム>カメラアラーム”と “アラーム>センサー感知”全てを“オフ(OFF)”にした場合、該当カメラは録画しなくなり、遠隔管理サーバー-PC(CMS PC)への通報もしない状態になります。

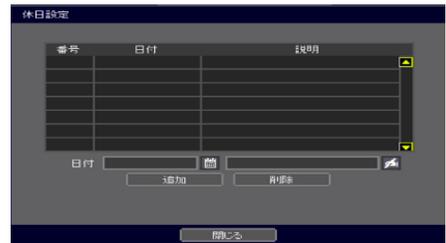
Note 録画スケジュールが“連続+モーション感知(CONT + MOT)”又は“モーション+センサー感知(MOT + SENS)”に設定されている時、システムが正常に動作する場合は連続、又はモーション感知モードで録画します。しかし、モーション領域からモーションが発生、アラームが動作すると録画モードは“アラーム>カメラアラーム”若しくは“アラーム>センサー感知”メニューでの設定により集中録画モードに自動切替します。

Note **紺色** サマータイム (Daylight Saving Time)適用区間のデータは再生モードのインテリサーチバーから紺色で表示されます。

休日設定

ユーザーは写真のように休日設定から最大32個まで休日を追加することが可能です。

[日付]設定ボタン(📅)を押して日付を設定、詳細を入力した後[追加]ボタンを押すと休日リストに追加されます。



Note 緊急録画 (Emergency Recording)

NVR前面部に“緊急録画(Instant recording)”ボタンがある特定モデルの場合、ユーザーが“緊急録画(Instant recording)”ボタンを押すと最大のフレーム、最大の解像度で全てのチャンネル録画を開始します。録画モードと関係なく、全てのチャンネルが録画されます。緊急録画によって保存された映像を再生する場合、時間表示バーは赤色で表示されます。緊急録画モードで録画中の場合は **E-REC** がライブ画面で表示されます。

「連続+」録画モードの場合1秒当たり1フレーム録画

「連続+」録画モードの場合イベントがないと1秒当たり1フレームで録画します。

緊急録画時の録画時間制限

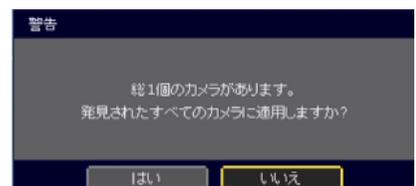
緊急録画時に録画時間を制限することが可能です。30秒/60秒/90秒/2分/5分/10分選択可能です。

4.4.3. 簡単設定

登録されているカメラの中で同じモデルの複数カメラに同じ設定を行う時に使います。



- ① 登録されているカメラモデルの中から設定するモデルを選択します。
- ② [ストリーム読み取り]ボタンで設定されているプロファイルを読み取ります。
- ③ [情報取得]から設定値を確認することができます。
- ④ 設定値を設定した後 [保存]ボタンを押します。
- ⑤ 接続されているカメラの中で選択したモデルのカメラが何台かを確認します。
- ⑥ “発見された全てのカメラに適用しますか？”と確認メッセージが表示され、「はい」を選択すると該当モデルのカメラ全て適用済みとなります。



4.5 ネットワーク

NVRとルーターに適切な設定を行い、固定IP又はダイナミックIPからインターネット経由でネットワーク接続ができます。

4.5.1. ネットワーク



ネットワークタイプ

固定IP(STATIC IP)又はダイナミックIP(DHCP)を選択します。
DHCPを選択し[IP検索]ボタンをクリックすると、“進行表示バー”に進行状態が表示されIPアドレスを更新します。

IPアドレス

固定IPに設定した場合  ボタンを利用してNVRのIPを特定IPに設定します。
DHCPに設定した場合システムのIPを表示します。

サブネットマスク(SUBNET MASK)

サブネットマスクアドレスは該当システムが属している位置のサブネットを区分します。詳細情報に関してはネットワーク管理者にお問い合わせください。

ゲートウェイ(GATEWAY)

ネットワークルーター、又はゲートウェイサーバーのIPアドレスです。外部ルーターから接続する場合必要です。詳細情報に関してはネットワーク管理者にお問い合わせください。

DNSサーバー

ドメインネームサーバーのIPアドレスを入力します。DDNS、E-MAIL通知機能やNTPサーバーを利用するためにはDNSサーバーアドレスが必要です。詳細情報が分からない場合は、“8.8.8.8”を入力してください。詳細情報に関してはネットワーク管理者にお問い合わせください。

TCP/IPポート

ローカルや遠隔地から接続する時、使用するポート番号を入力してください。遠隔ソフトサーバー(CMS)やスマートフォン接続(MobileViewerPro)の時に必要です。

Webポート

ウェブブラウザから接続する時使用されるポート番号を入力してください。

自動IP

自動IPを利用して自動的にIPアドレスが割り当てられます。

転送帯域幅

ユーザーの設定でデータの転送量を25kbpsから1Gbpsまで制御できます。この機能は低い帯域幅ネットワーク状況やユーザーが映像転送のネットワーク帯域幅を一定レベルで維持するように調整する時に活用できます。

UPnP (Universal Plug and Play)ポートフォワーディング使用

UPnPはルーターからポートフォワーディングを設定しなくても自動的にポートフォワーディングする機能(NAT TRAVERSAL)です。ルーターの種類やネットワーク状況によってサポートできない場合もあります。

ネットワーク環境に合わせて必要な情報入力、[保存]ボタンをクリックします。

- ネットワークタイプ : STATIC IP (固定IP場合)
- IPアドレス : NVRのIP番号指定 (ex, 192.168.0.164)
- SUBNET MASK : LANのサブネットマスク入力 (ex, 255.255.255.0)
- GATE WAY : LANのゲートウェイ入力 (ex, 192.168.0.111)
- DNSサーバー : DNSサーバーIP番号入力
インターネット接続のためにはこのIPを入力しなければなりません。インターネットサービス会社へIPをお問い合わせください。
- TCP/IPポート : デフォルトは9010です。インターネットサービス会社がポート9010を開放していない場合は他のポートを入力してください。 (ex, 9020)
- Webポート : デフォルトは80です。
インターネットサービス会社がポート80を開放していない場合は他のポートを入力してください。 (ex, 8080)
- 転送帯域幅 : デフォルトは100 Mbpsです。
ネットワーク状態で帯域幅を選択できます。

Note 同時に接続できるユーザーは最大15人までです。

POE 設定

① セットアップ

- MAC アドレス: 該当カメラのMAC Addressを表示します。
- 自動 IP : 該当カメラのAuto IPアドレスを表示します。
- GATE WAY :ゲートウェイを設定します。
- サブネットマスク : 該当カメラのサブネットマスクを設定します。

② 状態

接続されているPoEカメラの状態をすぐ確認して、PoEチャンネルに接続されたカメラ全てを再起動することができます。



4.5.2. DDNS

システムがダイナミックIPの場合、システムに接続するために、公開DDNSサーバー又はメーカーで運営するDDNSサーバー(dynlink.net)を利用するとIPアドレスを知らなくてもシステムへ接続することが可能です。



Note 「ヘルプ」ボタンはいくつかの重要な設定について説明しています。

例えば、DDNS設定方法についてヘルプが必要な場合、メニュー右下にある「ヘルプ」ボタンをクリックしてください。

DDNSサーバー

「DDNS使用(Use DDNS)」にチェックしてください。デフォルトは[DYNLINK.NET]で汎用サービスの[DYNDNS.COM](汎用有償サービス)の選択もできます。(メーカー運営サーバーは「dynlink.net」です。)

ネットワーク環境に合わせて情報を入力し、[保存]ボタンをクリックします。

① DDNS使用チェック

② DDNSサーバー : DYNLINK.NET 選択

③ TCP/IPポート : デフォルトは「80」です。

④ ドメインネーム : 使用するドメインネームを入力します。

もし、同じドメインネームが既に使用されている場合は、「保存」を押した時メッセージが表れます。

DEVICE IP MAPPINGと外部IP

ポートマッピング(=ポートフォワーディング)を使用する場合、つまりルーターを利用してインターネットに接続する場合は二つとも選択します。

❖ Web設定画面でのDDNS設定

Webで本製品に接続してから「設定」>「ネットワーク」から「DDNS」項目を選択し、サーバーアドレスとポート番号を入力してください。DDNSサーバーアドレスは(デフォルト)「dynlink.net」で、ポート番号は(デフォルト)「80」です。



- 【Tip】 Dynlink.netをご利用の場合はユーザーIDとパスワードは不要です。
 (汎用・有償DDNSサービスをご利用の場合はユーザーIDとパスワードが必要になります)
 【Tip】 Dynlink.net用のドメインネームは4桁～16桁の(半角)英文と数字で生成できます。

❖ 専用遠隔ソフトウェア(CMS)でのアドレス登録方法

CMSのデバイス追加(機器登録)に入力するIPアドレスは「Mac address + dynlink.net」又は「ドメインネーム + dynlink.net」を入力します。

例)下記の場合‘IPアドレス’入力欄に次のように入力します。

1. ドメインネームが“testnvr001”の場合 → 「testnvr001.dynlink.net」と入力
2. Mac addressが“00:1C:84:01:00:02”の場合 → 「001c84010002.dynlink.net」と入力

❖ エクスプローラーからの接続 (80番ポートを使用)

アドレス入力欄にMac address + dynlink.net(例, <http://00231c381f2d.dynlink.net>)又はドメインネーム + dynlink.net(例, <http://abc.dynlink.net>)を入力します。

例)下記の場合エクスプローラーのアドレス入力欄に次のように入力します。

1. Mac addressが“00:1C:84:01:00:02”の場合 → <http://001c84010002.dynlink.net>と入力
2. ドメインネームが“abc”の場合 → <http://abc.dynlink.net>と入力

ルーター設定(ポートフォワーディング)

ネットワーク接続のためにルーターのポート変換機能(=ポートマッピング;ポートフォワーディング)を使う場合、関連の設定が必要になります。(固定IP, ダイナミックIP全て) 詳しい説明はルーターの取扱説明書を参照ください。

【Tip】 本製品のネットワークポート情報

本製品は映像転送、設定、時間、同期化のためにいくつかのポートが必要になります。

次の表を参照してファイヤーウォールやその他セキュリティー設定によって遮断されないように予めご注意ください。

プロトコル	ポート	内容	詳細	変更	関連設定メニュー
TCP	9010	NVR Data Port (遠隔ソフトウェア接続)	TCP Port	可能	Network> Network
TCP	8002	NVR時刻同期機能に使用	Need port forward at CMS P/C network	可能	System Info > Date/Time Setting
TCP	8003	イベント通知ポート	Need port forward at remote P/C network	可能	Network > Notification
TCP	80	Web Service		可能	Network> Network
TCP	80	DDNS Server		△	Network> DDNS
TCP	123	NTP Server		不可	Network> Network

4.5.3. 通知



遠隔通知

本製品はネットワーク経由で遠隔管理サーバー(GMS PC)のIPアドレスにアラームメッセージで通報することができます。「遠隔通報」を選択し、IPアドレスとイベントを選択します。

追加/変更/削除

通報メッセージを受信する遠隔パソコンのIPアドレスを追加/変更/削除することができます。



- IPアドレス： イベント通報を受信する遠隔パソコンのIPアドレスを入力します。
- ポート： 遠隔パソコンから設定したポート番号を入力します。デフォルトは“8003”です。
- イベント： 受信するイベントを選択します。“全体”を選択すると、全てのイベントが選択されます。

Note NVRから通報があった場合、遠隔ソフトウェア(GMS)へポップアップするように設定することが可能です。ネットワークを通してリアルタイムでポップアップ映像を表示させるためにはユーザーが上記のメニューから“センサー”または“モーションアラーム”をチェックします。“センサー”は物理的に接続されているデバイスにより発生するアラームで、“モーションアラーム”はモーション感知により発生するアラームです。

メール通報

本製品はネットワークを通して事前に設定されているメールアドレスへ通報することができます。“メール通報”を選択して、メールアドレスとイベントを選択します。

追加/変更/削除

通報メールを受信するメールアドレスを追加/変更/削除することができます。



- メールアドレス： 受信するメールアドレスを入力します。
- イベント： 受信するイベントを選択します。“全体”を選択すると、全てのイベントが選択されます。

メール転送のための設定(SMTP設定)

メール通報を利用するためには下記の設定が必要です。

- SMTP : SMTPサーバーアドレスを入力します。
- ポート : メール発送に必要なポート番号を入力します。
- ユーザー : SMTPサーバーログインに必要なユーザーを入力します。
- パスワード : SMTPサーバーログインに必要なパスワードを入力します。
- 送信元 : 送信元のメールアドレスを入力します。
- メールテスト : 設定が正しいか確認することができます。メールを転送するとその結果を知らせます。SMTPサーバーの速度によって多少時間がかかる場合があります。テスト結果がOKになったのにも関わらずSMTPサーバーからメール転送ができない場合があります。受信メールを確認してください。
- SSL認証使用 : SMTPサーバーがSSL認証を必要とする場合(例, Gmail, Yahooメールなど), SSL認証でログインした後、使用を選択してください。

Note 設定の優先度順位は「録画 > 録画スケジュール」メニューです。
ユーザーが「録画 > 録画スケジュール」と「アラーム > カメラアラーム」、「アラーム > センサー感知」を適切に設定していなかった場合は、上記のイベント項目にチェックしていても、モーションアラームやセンサーアラームがメールで通報できなくなります。
例えば、「録画 > 録画スケジュール」から「連続録画」モードに設定したまま「メール通報(E-MAIL NOTIFY)」のチェックを「全体」にした場合、システムは通報しなくなります。この場合は、「メール通報(E-MAIL NOTIFY)」を可能にするためには「連続+モーション」「モーション」、「センサー」モード又は「連続+センサー」モードに設定しなければなりません。

4.5.4. モバイル通知

システムから発生したイベントを登録されているモバイルデバイス(スマートフォン)へ通報することができます。
[モバイル通知使用]を選択して、通報するイベント種類を選択します。



-
- Note**
1. モバイル通報機能(Mobile Push Notification)はiPhone、iPad、それから Androidフォンに適用されます。
 2. モバイル通報機能を使用するには、モバイルデバイスから正常に登録していなければなりません。
 3. モバイル通報機能の削除は、NVRとモバイルデバイス両方から可能です。
 4. 登録可能なデバイス数は最大50までです。
-

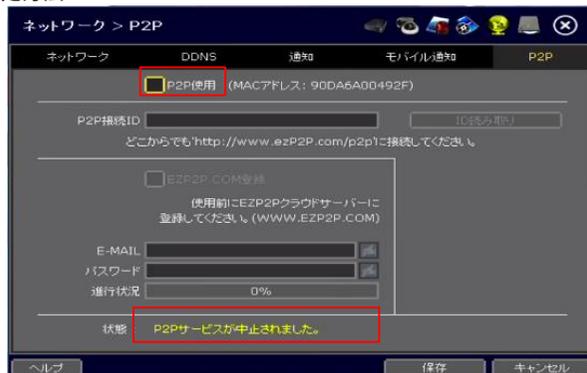
削除

NVRにモバイルデバイスが正常に登録されると、固有のIDがリストアップされます。
削除するには、該当デバイスを選択した後、“削除”ボタンを押します。削除すると該当デバイスへの通報(Mobile Push Notification)は無効になります。

-
- Note**
1. モバイル通報機能はNVRとモバイルデバイス両方ネットワークに接続されていなければなりません。
 2. 詳しい内容はMobileViewerProマニュアルを参照してください。
-

4.5.5. P2P

- ❖ QRコードと ezP2P™ クラウドサーバーをサポートします。
- ✓ QRコードP2P設定方法



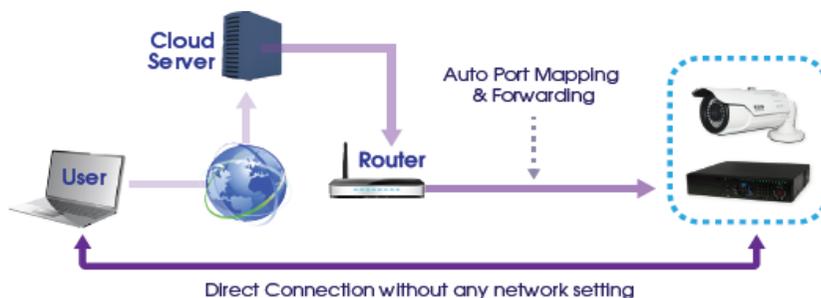
QRコードP2P初期画面(P2Pサービスが中止状態)

QRコードP2P使用画面(P2Pサービス開始状態)



- ✓ P2P使用にチェックするとQRコードが生成され、P2Pサービスが開始します。
- ✓ 上の写真のように MV3000 モバイルアプリで表示されているQRコードをスキャンすると映像を簡単に登録、モニタリングすることができます。

Note ezP2P サービスとは
 ezP2P™ クラウドサービスは、ポート変換等の複雑なネットワーク設定なしで、機器に遠隔接続できるサービスです。ユーザーのメールアドレスから ezP2P™ クラウドサーバー(www.ezp2p.com)へログインするとプレビューやライブモニタリングが可能です。



登録(ezP2P™ クラウドサーバー)

P2Pクラウド機能を利用するためには、ezP2P™クラウドサーバーサイト(www.ezp2p.com)に登録(無料)が必要です。「Registration」メニューからP2PサービスのIDとして登録する自分のメールアドレスを入力した後「SendCode」を押すと認証番号のメールが届きます。次にこの番号を入力してから(P2Pサイト接続に使う)パスワードを入力すると登録が完了します。



登録(NVR)

- ① [P2P使用]にチェックします。
- ② ezP2P™ Cloud Server サイトに登録したメールアドレスとパスワードを入力します。



- ③ [保存] をクリックして ezP2P クラウドサーバーとの通信を開始します。
- ④ 進行率が表示(④)されます。完了すると、自動ポートフォワーディング結果(⑤)がメニュー下段に表示されます。

接続 (ezP2P™ Cloud Server)

ezP2P™ クラウドサービスサイト(www.ezp2p.com)からログインします。“Preview My Device”を選択すると、同じメールアドレスから登録した全てのデバイスリストがイメージと一緒に表示されます。



Caution 次の場合には、P2P機能使用が制限されることがあります。

- 1) ルーターのUPnP機能がオフになっているかUPnP機能に対応していないルーターの場合
 - 2) ファイヤーウォール設定になっている場合 (ポート50,000～がオープンになっていなければなりません。)
 - 3) その他の問題でネットワーク環境からサポートできない場合
- 機能が動作しない場合は、ネットワーク管理者やインターネットサービス業者へお問い合わせください。

Note

ezLink™
ezLink™は同じネットワーク上のNVRをWebブラウザから簡単に接続できる機能です。
NVRのMac addressを利用して、NVRのライブ映像を見ることができます。
([http:// 機器のMacAddress ..ezp2p.net](http://機器のMacAddress.ezp2p.net))

例えば、Mac Addressが“00:1C:84:01:00:02”だとすると、“001c84010002.ezp2p.net”と入力します。

4.6 バックアップ

4.6.1. 手動バックアップ

一つ以上のチャンネルの特定期間記録された映像を、次のようにバックアップすることができます。USBメモリー/USB HDD、内蔵CD/DVDドライブのようなデバイスを接続した後、システムが認識するように“スキャン”ボタンを押します。必要なファイルサイズはバックアップ前に表示されます。

このシステムは独自の映像圧縮ファイル形式“SSF”ビデオファイルを別途再生プログラム設置無しでも、ユーザーのパソコンから再生できるようにしています。下記写真のように“ビューアー追加”チェックボックスをクリックすると、実行可能なEXE形式のビューアーファイルが該当ビデオ映像と一緒にバックアップされます。



Note バックアップデバイスは CD/DVDドライブ若しくは FAT/FAT32でフォーマットされている一般用USB thumb drivesを使用します。

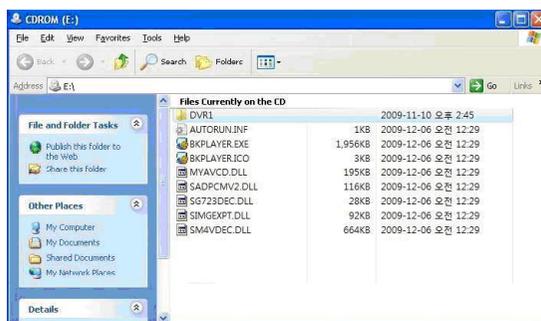
- 1) 当システムはフォーマットタイプが違うため、外付けのHDDは認識できません。
- 2) USBメモリーにパーティションが仕切られている場合やパスワードが設定されている場合は使用できません。

Note 「ヘルプ」では重要な設定について説明しています。バックアップ設定方法について詳しい説明が必要な場合は、メニュー右下の「ヘルプ」ボタンをクリックしてください。

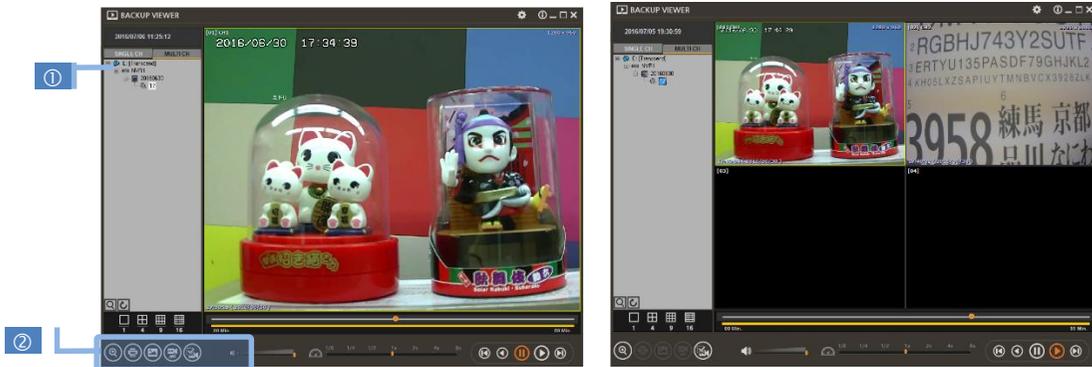
4.6.2. バックアップした映像を見る

[ビューアー追加]項目を選択してバックアップした場合、一般のパソコンからバックアップした映像を見ることが出来ます。バックアップデバイス(USB、CD/DVD..)をPCIに接続すると写真のようにエクスプローラーからバックアップしたファイルを確認することができます。

映像をみる時は、“MultiBackupPlayer.exe”ファイルをダブルクリックし、日付別フォルダにあるデータファイル(SSF形式)を開きます。フォルダ名は保存した日付になります。



一つのチャンネルを再生するには、マルチバックアッププレーヤーのシングルチャンネルモード(下の写真の①に [SINGLE CH] タブを選択)にSSFファイル(ビデオデータファイル)をドラッグ&ドロップします。複数のチャンネルを再生するには、マルチチャンネルモード(下の写真の②から [MULTI CH]タブを選択)から“サーチ”をクリックしSSFファイルがあるフォルダを開いて再生する映像を選択します。

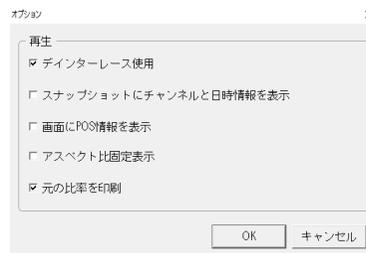


左下のアイコン(②)を利用して静止画をプリントアウト、キャプチャーすることが可能で、ズーム機能が使えます。

オプションメニュー

オプションから 下記機能の活用有無をチェックすることができます。

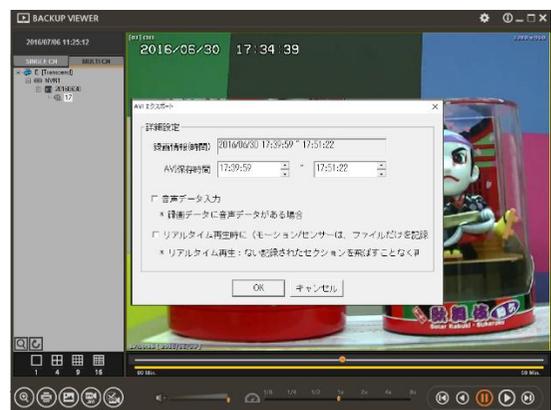
- デインターレース使用
- スナップショットにチャンネルと日時情報を表示
- 画面にPOS情報を表示
- アスペクト非固定表示
- 元の比率を印刷



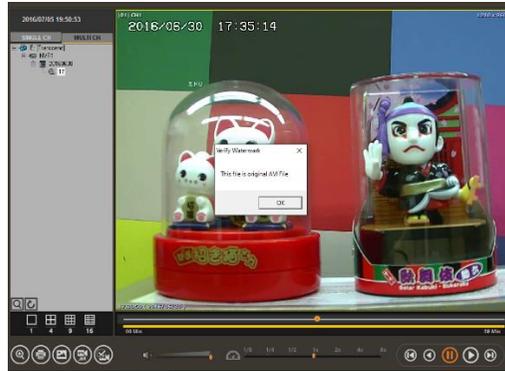
AVI ファイルのウォーターマーク確認

ユーザーはSSFファイル形式をAVIファイルに変更して一般のウィンドウメディアプログラムから再生することが可能です。

- 1) シングルチャンネルモードからSSFファイルを再生して、[一時停止]アイコンを押します。
- 2) [AVI Convert] アイコンを押します。
- 3) 開始時間と終了時間を設定します。



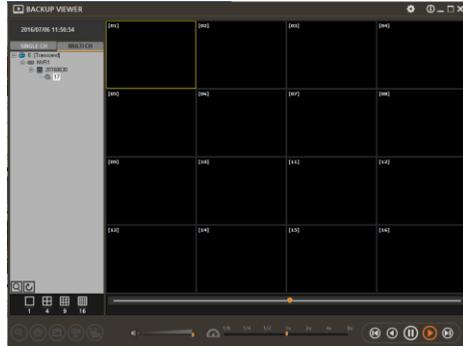
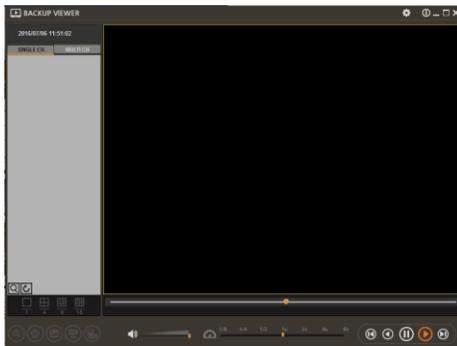
バックアッププレーヤーからAVIファイルを再生する時、「ウォーターマーク」ボタンをクリックして、ファイルの偽造などがなければ確認することができます。



原本ファイルの偽造が見つからなかった場合ポップアップが表示されます

Note マルチバックアッププレーヤーは下記の二つのモードをサポートしています。 (**SINGLE CH** , **MULTI CH**)

- 1) シングルチャンネルモード
 - > 選択されたフォルダのSSFファイルを表示します。
- 2) マルチチャンネルモード
 - > パソコンのフォルダからSSFファイルを表示します。

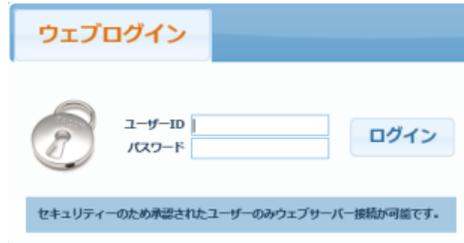


5. インターネットエクスプローラーからのWebモニタリング

当システムのWebモニタリングサービスは独自のWebサーバーから提供しています。ユーザーは遠隔ソフトを別途インストールしなくても、リアルタイムでのモニタリング、再生、遠隔設定のためにインターネットウェブブラウザからいつでもシステムに接続することが可能です。

5.1 Web ログイン

ユーザーは有効なWebポートを開放した後、ウェブブラウザへ正しいIPアドレスを入力します。なお、Active-X fileをダウンロード、設置すると下記のようなログイン画面が表示されます。

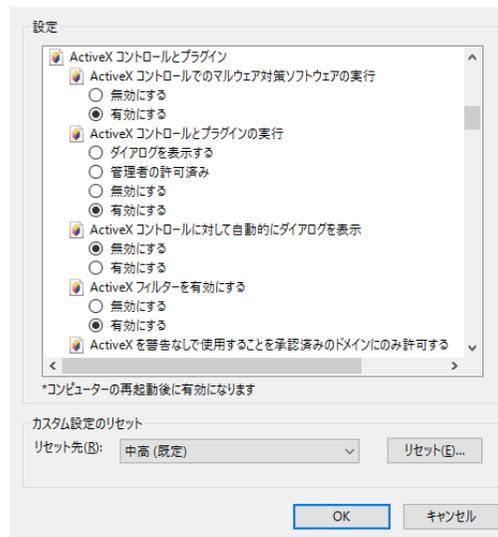


Active-X 設置

1. パソコンにActive-Xが設置されていない場合、下記のようなメッセージが表示され、ダウンロードできる状態になります。



2. Active-Xファイルを正しくダウンロードするためには IEウェブブラウザのセキュリティ設定を確認してください。IEメニューのツール>オプション>セキュリティ>インターネット>カスタムレベルから全てのActive-Xコントロール及びプラグインを“使用”に選択します。



5.2 Webモニタリング

初期の画面ではライブ映像が表示されます。
ユーザーは再生、セットアップ、ログアウトメニューから選択できます。



ライブ

接続するチャンネルと再接続期間を設定することが可能です。

PTZコントロール

PTZカメラが接続されているチャンネルに対してPTZ操作ができます。

機能

オーディオOn/Offやインターレース機能が利用できます。

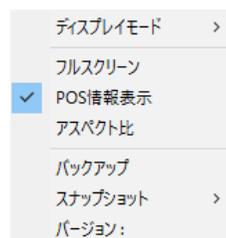
メニュー非表示/メニュー表示

左側のメニューを表示させたり、隠すことができます。

ポップアップメニュー

マウス右ボタンをクリックすると、ポップアップメニューが表示されます。

画面モード、全画面、POS表示、録画画面比率、デジタルズームのような様々な機能が設定できます。



5.3 ウェブ再生

ユーザーは“再生”モードからNVRに保存されている映像を再生することができます。

日付/時間

日付と時間を選択した後“検索”ボタンを押すと再生します。

再生コントロール

再生速度を調節する機能で、速度は右側に表示されます。

DST使用

DST(サマータイム)適用期間の重複した映像を再生するためにチェックします。

Section 3.7 (DST(サマータイム)設定及び映像再生)を参照してください。

インテリサーチバー

ユーザーは赤い垂直ラインを移動させながら、映像を検索することができます。

タイムバーの色は録画モードによって異なります。



5.4 設定

【設定メニュー】

メインメニュー	サブメニュー
システム	情報
	ユーザー
	ディスプレイ
	設定
装置	カメラ
	オーディオ
	キーボード
イベント	センサー
	カメラアラーム
録画	アラーム(その他)
	カメラ管理
	登録
ネットワーク	スケジュール
	ネットワーク
	DDNS
	通知

IDとパスワードを入力してログインした後、各メニューから本製品の設定ができます。
ウェブ設定は「admin」アカウントからのみ可能です。

【システム】



【装置】



【イベント】



【録画】



【ネットワーク】



Note <システム再起動>はユーザーが設定値を変更しないで、システムを再起動するための機能です。
ネットワークが異常動作で切断され、もう一度接続する時にこの機能を使用します。但し、DHCPモードの場合
割り当てられたIPアドレスが変更されることがありますので、ご注意ください。

6. よくあるご質問

1. センサーモード、モーションモードで録画をしません。

- 1) センサーモード、モーションモードではインベントが発生した時のみ録画をします。
- 2) 設定を確認して [アラーム - センサー] 又は [アラーム - モーション] タブからの設定をもう一度確認してください。

2. HDDが装着されているのにHDD無し () アイコンが表示されます。

- 1) HDDのケーブル接続(電源 / data)状態を確認してください。
- 2) メニュー[システム - ハードディスク] タブからのリストにHDDがあるとフォーマットされてない状態の可能性がありますので、HDDのフォーマットを行ってください。

3. 電源を入れたけど、画面が表示されません。

- 1) 電源供給に問題がないか確認してください。電源が入ると基本的にファンとHDDの動作音が発生します。
- 2) NVRと接続状態を確認してください。モニター以外の全てのケーブル(カメラを含む)を切断してもう一度電源を入れてNVRが起動するかを確認してください。
- 3) 起動時(H.264 Digital Video Surveillance System) ログ状態で画面が止まった場合は強制的に設定値を初期化する方法を購入先へお問い合わせください。解決しない場合はRMA(Return Merchandise Authorization-仕入先へ返品して交換してもらう)で対応いたします。

4. PPPoE 接続方法について(xDSL, cable など)

- 1) NVRからPPPoEにログインする機能はありません。
- 2) PPPoEログインができるルーターを使用してください。

5. DDNS(dynlink.net, dyndns.org)を使用するにはポートをオープンする必要がありますか(dynlink.net, dyndns.org)

はい、そうです。
DDNSはNVRの変動するアドレス(ISPから提供するダイナミックIP)に対して遠隔ソフト側から知らせてくれるか、IPを知らなくてもサブドメイン(sub domain.dynlink.net. メーカーDDNSのサブドメインタイプ)又は、一般的なドメイン(your domain.dyndns.org タイプ)でNVRにアクセスするための機能です。

6. 遠隔ソフト(Remote software)から映像は見れるがWEB CGIへ接続できません。

- 1) 一部のISPでは80ポートをブロックする場合があります。NVRのWEBポートを変更(8080又は8088ポートがお勧め)した後、もう一度接続して確認ください。
- 2) 80ポートがオープンになっているか確認してください。

7. WEB CGIからログインはできるが画像が見えません。

映像をみるためにはTCP Baseポートがオープンにならなければなりません。TCP base portのデフォルトは9010です。

8. 遠隔ソフトから映像が表示されるとすぐ切断になります。

- 1) 一部ISPではupload trafficに制限がある場合があります。ISPへお問い合わせください。
- 2) Trafficアップロード制限は次の方法で確認できます。
> モデムとルーターの電源をオフにします。
> 数分後(1~5分)、まずモデムをオンにして、その後ルーターをオンにします。
> もう一度接続した後、問題があった時と同じ時間が経過して映像が切断されるとISP側でupload trafficについてブロックしていることとなります。

9. USBメモリーは認識するが、バックアップ/ファームウェアアップグレードができません。

- 1) FAT, FAT32でフォーマットされたUSBメモリーのみ使用可能です。
- 2) USBメモリーのパーティションが仕切られているか、セキュリティー機能がついているUSBメモリーの場合は使用制限される可能性があります。

10. CDにファームウェアを入れてファームウェアアップグレードをする時失敗します。

- 1) ファームウェアアップグレードはrootにあるファイルだけ認識します。サブフォルダのファームウェアファイルは認識出来ません。
- 2) USBからのファームウェアアップグレードをお勧めします。

11. NTPサーバーによる時刻同期ができません。

NTPサーバーはDNSサーバーアドレスを必要とします。[ネットワーク]からDNSサーバーアドレスが正しいかを確認してください。

12. メール通報機能が動作しません。

- 1) メール通報機能はSMTPサービスを基盤としています。
転送するメールサーバーがSMTPサービスをサポートしているかを確認してください。
- 2) 本製品は Gmailと yahoo mail(SSLを含む)のようなTLS認証基盤のSMTPサービスをサポートしていません。
SMTPサービスはDNS基盤のサポートです。[ネットワーク]メニューからDNSサーバーアドレスが正しいか確認してください。